

2026

7月-8月

Vol. 102 No.3

安息日聖書教科



キリストと共に歩む

「キリストの道」を通してより近く神と共に歩む

目次

1. 人に対する神の愛	5
2. 罪人が必要とするキリスト	10
3. 悔い改め	15
4. 告白	20
5. 献身	26
6. 信仰と受け入れ	31
7. 弟子としての証拠	36
8. キリストへと成長する	41
9. 働きと人生	46
10. 神を知る知識	52
11. 祈りの特権	57
12. 疑いをどうするか	62
13. 主にあつて喜ぶ	67

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科
Vol.102, No.3

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト: Illustrations:
Cover iStockphoto, Chennai
Church, Education Dept,
Philippine Union.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

今期の研究シリーズ、「イエスと共に歩む」は、「キリストへの道」に基づいています。これは、一章ごとに、聖書の教訓に関するコメントリとして読むことができます。

安息日学校の生徒の中には、1980年の第一四半期にこの主題が取り扱われたときのことを思い出す方もいるでしょう。新たな企画と追加的な教材を加えながらも、ずっと昔に教えられた同じ深い真理を、もう一度提示できることをうれしく思います。

あまりにもしばしば、人々は天父を冷たく遠い方であり、きびしく厳格な裁判官だと考えます。彼らは自分たちのためのこのお方の愛の深さや、このお方のすべての子らに対する御心のうちに抱かれた優しい保護を見過ごします。

神の愛がまず第一に提示されるべきです。それから、罪人は無力で希望がなく、救い主を必要としているという事実が続くべきです。罪人を救うために来られたキリストの生涯は、天父に帰るための確かな道があることを示しています。

これらの教訓が取り扱う主題は、クリスチャン生活における主要な経験に関わるものであり、特に恵みに成長しようとしている信仰の新しい信徒に適用されます。すべての信徒たちが折にふれ、主題を見返すべきです。そして自分自身の益のためばかりでなく、他の人々もまたキリストの許へ来るための最上の道を認識するためです。

通常の教理的な真理の提示によって、それらをはっきりと理解し、受け入れるように導き、人が教会員として受け入れられるようにするかもしれません。しかし、そのような人がキリストとのつながりのうちに導き入れられないかぎり、彼に本物の命—永遠の命—はありません。まことに、「御子を信じる者は永遠の命をもつ」(ヨハネ 3:36)。

すべての安息日学校生徒は、自分たちが本当に神の家族に養子縁組されたのだということを彼ら自身の霊と共に御霊の証を持つべきです。各自は彼ら自身の模範、いつでも万事につけ彼ら自身が絶えず天父に依存していることが本物であり、実践的であることを自覚すべきです。弱い人間の愛以上のものが必要とされています。彼ら自身の心の中に植え付けられて、このお方が愛されたように、彼らが愛することができるように。

これが安息日学校のメンバー一人ひとりの経験となりますように。

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金 インド チェンナイの教会増築のために

かつてマドラスと呼ばれていたチェンナイは、インド最南端の州であるタミル・ナードゥ州の州都であり、最大の都市です。ベンガル湾のコロマンデル海岸に位置しています。2011 年のインド国勢調査によると、チェンナイはインドで 6 番目に人口の多い都市であり、4 番目に人口の多い都市圏を形成しています。1688 年に設立されたグレーター・チェンナイ市は、インドで最も古い自治体であり、ロンドンに次いで世界で 2 番目に古い自治体です。約 15,000 の産業が集積する商業の中心地であり、「インドの健康首都」と呼ばれる医療ツーリズムの主要拠点でもあります。また、インドの自動車産業の大部分が集中していることから、「インドのデトロイト」とも呼ばれています。チェンナイは、2015 年にナショナルジオグラフィック誌の「世界の食の都市トップ 10」にランクインした唯一の南アジアの都市であり、ロンリープラネットの「世界で最も国際色豊かな都市」ランキングでは 9 位にランクインしています。

チェンナイ都市部の人口は現在 1,200 万人を超え、現在、年間 2.34% の安定した速度で増加しています。この都市には、多様な民族、宗教コミュニティが住んでいます。2011 年の国勢調査によると、チェンナイの人口の大部分はヒンズー教徒 (80.73%) で、次にイスラム教徒が 9.45%、キリスト教徒が 7.72%、その他が 1.27%、無宗教または宗教的好みを公言していない人が 0.83% でした。

2019 年現在、市内の 178 万 8 千世帯のうち 40%が貧困ライン以下の生活を送っています。2017 年現在、市内には 220 万世帯があり、住民の 40%が持ち家を持っていません。市内には約 1,131 のスラム街があり、30 万世帯以上が暮らしています。あらゆる人々がここに住んでおり、この終わりの時代にあって、すべての人々がイエス・キリストの永遠の福音を聞く必要があるのです。

厳しい経済状況のため、チェンナイの教会建設を予定期間内に完了することができませんでした。現在工事を進めている中で、牧師館、会議場、そして子供たちのための安息日学校の教室を増築する必要性も認識しています。これを実現するためには、世界中の愛する教会の皆様からの温かいご支援が不可欠です。

兄弟姉妹の皆様、そして若い世代の皆様にも、このプロジェクトへの寛大な献金を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

あらかじめ感謝申し上げます。主が皆様を豊かに祝福してくださいますように。

チェンナイの皆さんの兄弟姉妹より

人に対する神の愛

暗唱聖句：「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。」(ヨハネの第一の手紙 3:1)

推奨文献： キリストへの道 1－12 (神の愛)

「神は愛である。太陽の光のように、愛と光と喜びは、神からすべての被造物に流れ出る。」(祝福の山 95)

1. 神は愛である

日曜日 6 月 28 日

a. 人類に対する神の愛について、どのような証拠が与えられていますか (出エジプト記 34:6, 7; ヨナ書 4:2 (下句); エレミヤ書 31:3)

「神のみ言葉は神のご性質をあらわしています。神御自ら、ご自身の限りない愛とあわれみについてお語りになりました。モーセが『どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください』と言った時に、神はそれに答えて、『わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ』(出エジプト記 33:18, 19) と仰せになりました。これが神の栄えです。神はモーセの前を過ぎて、『主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者』(出エジプト記 34:6, 7) 『怒ることおそく、いつくしみ豊かで (ヨナ書 4:2) 「いつくしみを喜ばれる』(ミカ書 7:18) ものであると仰せになりました。』(キリストへの道 3)

b. ご自分のひとり子をつかわされた神のご目的は何でしたか (マタイによる福音書 11:27; ヨハネによる福音書 14:8, 9)。

「悪魔は人の心をくらし、神を恐ろしいもののように見せかけ、残酷で人を決してゆるさない者、きびしい裁判官が強欲な金貸しのように、敵として動かぬ者のように思わせています。また創造主をつねに人類のあやまちを拾い上げて厳罰に処している者のように思わせています。イエスが人類の間に住みたもうたのは、この暗いかげを取り除いて神の限りない愛を示すためでありました。(同上 4)

- a. ご自分の地上の使命を、イエスはどのように描写されましたか（ルカによる福音書 4:16-18）。

「[ルカ 4:18 引用]。これがイエスの使命でありました。かれはあまねくめぐりて良きことをなし、悪魔に苦しめられている者をおいやしになりました。こうしてあらゆる病気をいやしなから、村々をお通りになりましたので、村中だれ一人、病で苦しむ者がいなくなったほどでした。こうしたお働きがイエスの神からつかわされたことのしるしでありました。イエスの生涯のあらゆる行為には愛と情とあわれみとが見られ、その心は優しい同情となって人々の上にさしのべられたのです。イエスが人となられたのも、人間の必要に応ずることができるためでありました。どんなに貧しい者も、どんなに卑しい者も、恐れなくイエスに近づくことができました。また幼い子供でさえかれにひきつけられ、そのひざによじのぼって愛にあふれた物静かなみ顔に見入るのでありました。」（キリストへの道 5、6）

「イエスはひとりびとりの魂を、神のみ国への招待を与えられなければならない者としてごらんになった。イエスは人々の幸福を願う者として、彼らの中にはいつて行くことによって、彼らの心をとらえられた。彼は大通りで、個人の家々で、舟の上で、会堂の中で、湖の岸辺で、婚宴の席で、彼らを求められた。彼は人々が日常の働きをしているところで彼らに会い、彼らの俗事に興味を示された。イエスのご自分の教えを家庭に持ち込み、家族をそれぞれの家庭においてイエスのきよいご臨在の感化のもとにおかれた。イエスの個人的な強い同情は人々の心をとらえる助けとなった。イエスはひとりで祈るためにたびたび山へ行かれたが、これは活動的な生活において人々のために働く準備であった。このようなひと時を経て、イエスは、病人をいやし、無知の者に教え、サタンのとりこの鎖をたち切るために出てこられた。」（各時代の希望上巻 176、177）

- b. 愛と同情に満ちておられるにもかかわらず、悪を譴責なさるキリストの忠実さについて、どの例がありますか（ヨハネによる福音書 9:39-41; マタイによる福音書 21:12, 13）。

「イエスは真実をなんの遠慮もなく語りたまいましたが、そういう時にはいつも愛をもってお語りになりました。また人と交際するにあたっては、いかにもじょうずに、深い思いやりとこまかい注意を払い、荒々しい言葉を用いたり、なんの理由もないのに言葉を鋭くしたり、感じやすい心をなんの必要もないのに傷つけたり、人の弱さを責めたりなさいませんでした。… イエスの目にはどのたましいもみな尊くうつつたのです。かれは神の子の威厳をお備えになっていましたが、へりくだって、神の家族の一人ひとりをやさしく思いやり、どの人を見ても、この罪に落ちたたましいを救うことこそ自分の使命であるとお思いになったのです。」（キリストへの道 6、7）

- a. わたしたちの救い主は、ご自分の一生のあいだ、どの重荷を負われましたか（イザヤ書 53:5-7; ルカによる福音書 2:48, 49）。

「イエスは人類の救いのために、恐ろしいほど重い責任を担っておられました。このお方は人類の原則と目的に決定的な変化がなければ、すべての者が失われてしまうことをご存知でした。これがイエスの魂の重荷でしたが、だれもこのお方の上におかれているこの重荷を理解することはできませんでした。イエスは、子供のときも、青年時代も、大人になられてからもひとりで歩まれました。しかし、このお方のご臨在のうちにいることは、天国でした。日々このお方は、試練や誘惑に遭遇なされ、日々悪と接触し、自分が祝し救ってやりたいと願っておられた人々の上に、悪の力が働いているのをごらんになりました。しかしけっして、負けたり失望したりなさいませんでした。

何事にもキリストはご自分の使命のために、みずからの欲望をきびしくおさえられました。彼は父のみこころにすべてを従わせることによって、ご自分の生涯を栄光あるものとされました。少年のころ、イエスがラビの学校におられるのを母がみつめて、『どうしてこんな事をしてくれたのです』と言うと、このお方は答えて、『どうしてお捜しになったのですか。わたしが自分の父の家にいる（働きに携わっている）はずのことを、ご存じなかったのですか』とお答えになりましたが、この答こそ、このお方の一生の働きの基調でした。

キリストの一生は絶えざる自己犠牲の一生でした。親切な友人たちが旅びととしてのこのお方のために備えた所以外には、このお方の家はこの地上のどこにもありませんでした。このお方はわたしたちのために最も貧しい生涯を送り、貧しい者や苦しい者の間で生活し、また働くためにおいでになったのである。それほどお尽しになった人々の間にあってこのお方は認められず、とうとばれずに生活されました。」（福音宣伝者 42, 43）

- b. 神の豊かな愛があふれることは、わたしたちの天父について、何を教えますか（ヨハネによる福音書 3:16; ヨハネの第一の手紙 4:9, 10）。

「この大きな犠牲が払われたために、天の神のみ心に人に対する愛の気持をおこさせたのでもなければ、救いたいとの考えを生じさせたのでもありません。いいえ、そうではなく『神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛し』（ヨハネ 3:16）たもうたのです。神は、その大きななだめのそなえもののゆえに、わたしたちを愛したもうたのではなく、わたしたちを愛するゆえに、なだめのそなえものを与えたもうたのです。キリストは罪に落ちた世界に神の限りない愛をそそぎたもう仲介者でありました。『神はキリストにおいて世をご自分に和解させ』（コリント第二・5:19）とあります。神はみ子と共にお苦しみになりました。ゲッセマネの苦しみ、カルバリーの死を通し、限りない愛をもちたもう神はわたしたちのあがないの価をお払いになったのです。』（キリストへの道 8、9）

- a. わたしたちの魂の救いの基礎は何ですか（コリント人への第一の手紙 1:30; 使徒行伝 16:31）。

「ああ、キリストは失われた者を救うことに、どれほど魂の飢えと切望を感じておられたことでしょうか。十字架上につけられた体は、このお方の神性も、またこのお方の義を受け入れるすべての者を人性の犠牲を通して救うこのお方の神の力をも、損なうことはありませんでした。十字架上で死なれることによって、このお方は、ご自分を個人的な贖い主として信じる信仰を通して、罪を違反者からその神なる身代わりに移されました。象徴において『紅のように赤』いと表されている罪深い世の罪は、神なる保証人に着せられました。」（この日を神と共に 236）

- b. キリストは人間の努力や知恵を越えた贖いのために、何をなさいましたか（ヨハネによる福音書 10:17; ローマ人への手紙 5:6-8）。

「『私の父は、あなた方をこの上なく愛しておられますから、私があなたがたの救いのために命を捨てたため、以前にもまして私を愛してください。あなた方の負債と罪を負って生命を捨て、あなた方の身代り、保証人となったため、私は父にいつそう愛せられるようになったのです。なぜならば、私の犠牲によって神は義であることができると同時に、私を信ずる者をも義としたもうことができるからです。』

神の子のほかにはだれもわたしたちのあがないを全うすることはできません。というのは神のふところにいた者でなければ神をあらわすことはできないからです。神の愛の高さ、深さを知る者だけがそれをあらわすことができるのです。墮落した人類のためにキリストが払いたもうた限りない犠牲ほど、失われた人類に対する神の愛をあらわすことのできるものではありません。」（キリストへの道9、10）

- c. ヨハネは神のみ座におられるわたしたちの仲保者についてどのように証することができましたか（ヨハネの第一の手紙 1:1-3）。

「罪の嘆かわしい性質を正しく評価している人、神の律法の違反の結果である破滅の大きさを把握している人はほとんどいません。罪人に神の道徳的なみかたちを回復するすばらしい贖いの計画を吟味することによって、わたしたちは人間の唯一の救出の手段が、神の御子の自己犠牲と、比類のないへりくだりと愛によって実行されたことを見るのです。このお方だけが神と人の大敵との闘いを、わたしたちの身代わりまた保証人としてたかう強さを有しています。このお方は信仰によってご自分をつかむ人々に、ご自分の名のうちに、またご自分の功績を通して勝利者とする力を与えます。」（クリスチャン教育 112）

- a. キリストはわたしたちの贖いの代価を払う資格を何によって得られましたか（ペテロの第一の手紙 1:18, 19; ヘブル人への手紙 5:8, 9）。

「わたしたちのあがないのために払われた価、わたしたちのためにそのひとり子に死をさえおゆるしになった天の神の測り知れない犠牲を考えると、キリストによってわたしたちは非常に高潔な状態に到達することができるという観念をおこさずにはおられません。靈感に動かされた使徒ヨハネは、滅びゆく人類への天の父の愛の高さ、深さ、広さをながめて、心はただありがたさと敬けんの念でいっぱいになり、その愛の偉大さ、優しさを適当に表現する言葉を見いだすことができないで、…人はなんと尊い価値をもっていることでしょう。罪を犯して人の子らは悪魔のどれいとなりましたが、キリストのあがないの犠牲を信ずることによって、アダムの子らはまた神の子となることができますのです。キリストは人の性情をおとりになって人類を引き上げてくださいました。罪に落ちた人類は、キリストにつながってはじめて『神の子』という、その名にふさわしい尊い者となれるのです。」（キリストへの道 11）

- b. 神の愛の大きさを表現するために使徒ヨハネはどの言葉を用いましたか（ヨハネの第一の手紙 3:1, 2）。

「このような愛に比べうるものはなにもありません。天の王子となるというのです。なんと尊いみ約束でしょう。これは深い瞑想に価する主題です。神を愛さなかった人類へのたぐいもない神の愛です。この愛を考えると心はへりくだり、神のみ旨のままに従うようになります。そして十字架の光に照されて神のご性質を学べば学ぶほど神の恵みとあわれみを知り、神の公平と正義とゆるしとが一つになっていて、放蕩むすこを思いやる母親にもまさる限りない優しい愛の数知れない証拠を認めることができますのです。」（同上 11、12）

個人的な復習問題

1. 神のご品性の最も重要な特質を述べなさい。
2. イエスは、地上におられる間、どのように神のご品性を表されましたか。
3. キリストの使命は、このお方の選択にどのように感化を及ぼしましたか。
4. わたしたちの身代わりとなられることによって、イエスはどの教訓を教えてくださいましたか。
5. わたしたちのためのキリストの最高の賜物を述べなさい。

罪人が必要とするキリスト

暗唱聖句：「イエスは答えて言われた、『よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない』。(ヨハネによる福音書 3:3)

推奨文献： キリストへの道 13 - 21 (キリストの必要)

「われわれ墮落した人類のただ一つの望みはキリストのうちにある。」(各時代の希望上巻 169)

1. 人の本来の状態

日曜日 7 月 5 日

a. エデンにおける人の本来の状態を述べなさい (創世記 1:26, 27, 31; 詩篇 8:4-6)。

「初め、人はすぐれた能力と調和の取れた精神を与えられていました。かれはまた人として完全で神と調和し…ていました。」(キリストへの道 13)

「人間は、外観においても、品性においても、神のかたちを保っているはずであった。キリストだけが、天の父の『本質の真の姿』ではあるが、人間は、神に似せて造られたのである (ヘブル 1:3)。彼の性質は、神のみ旨と調和していた。人間の知力は、神の事物を理解することができた。彼の愛情は清く、食欲や情欲は理性の支配のもとにあった。彼は、神のかたちをしていて、神のみ旨に完全に服従していたので、清く、幸福であった。」(人類のあけぼの上巻 20)

b. サタンは、人間の創造における神のご計画を挫折させるために、どのように働きましたか (創世記 3:1-7; ローマ人への手紙 6:16; ヨハネの第一の手紙 2:16)。

「神に背いたため(人の)能力は悪に向けられ、愛は利己心とかわってしまいました。罪のため人の性質はすっかり弱められて、自分の力では悪の勢力と戦うことができなくなりました。こうして悪魔のとりことなってしまったのですから、もし、神が特別に救ってくださらなかつたならば、いつまでもそのままの状態でいたことでありましょう。悪魔は、人類を創造したもうた神のご計画を妨害し、この世を悲しみと破壊で満たそうと思いました。そして、こうした災いはみな神が人類を創造したもうた結果であると言おうとしたのです。」(キリストへの道 13)

- a. 罪を犯した後、アダムとエバは神のみ声を聞いたときに、どのように反応しましたか(創世記 3:8-10)。
- b. なぜ罪深い人類は、無限のお方のみ前に立つことができないのですか(出エジプト記 33:20; 申命記 4:23, 24)。

「人は、罪を犯す前には『知恵と知識との宝が、いっさい隠されている』(コロサイ 2:3) キリストとの交わりを楽しむことができました。けれども罪を犯して後は、もはやきよいことを楽しめなくなり、神のみ前から隠れようとなりました。今日でも、新生を経験しない人の状態はその通りで、神と一致していないため神と交わることを喜ばないのです。罪人は神のみ前では楽しむことはできません。彼らは、きよい者らとの交わりを避けようとしています。たとえ天国にはいることが許されても、すこしも喜びとはならないでしょう。天国では無我の愛の精神がみちみちていて、限りない神の愛をすべての心が反映しているのですが、そうした精神も、罪人の心にはなんの感動も与えないことでしょう。そして、その思想も興味も動機も天国に住む罪なき者らの気持とは全く異なっていることでしょう。彼らは天国の美しい音楽と調和しないものとなるのです。天国はあたかも苦しいところのように思われ、光であり喜びの中心である神のみ顔を避けようとするでしょう。悪人は天国には入れないというのはなんにも神が独断的に定めたもうたのではありません。それは、彼ら自らがそうした交わりに不適当なものとなってしまったからです。神の栄光は、罪人にとってはやきつくす火です。」(キリストへの道 13-15)

- c. なぜ人は自分で罪の刑罰をまぬかれることが不可能なのですか(ヨブ記 14:4; ローマ人への手紙 8:7, 8; イザヤ書 64:6)。

「わたしたちは、自分の力で一度沈んだ罪の淵からのがれることはできません。また、わたしたちの悪い心を変えることもできないのです。『だれが汚れたものうちから清いものを出すことができようか、ひとりもない』(ヨブ記 14:4)。…教育、教養、意志の力、人間の努力などいざれも、それぞれ大切な役割をもっていますが、心を新たにする能力は全くないのです。もちろん、わたしたちの行動にただ外面的の正しさは与えるかも知れませんが、心を変えることもできなければ、生活の源泉をきよめることもできないのです。天よりの新しい生命がその人の内部に働かなければ、人は罪よりきよめられることはできません。この力というのはキリストです。キリストの恵みのみが人の力なき魂を生きかえらせて、これを神ときよきに惹きつけることができるのです。」(同上 15)

- a. 人間の心について、何を自覚しなければなりませんか（詩篇 14:1-3; ローマ人への手紙 3:9-11）。

「神のみ言葉は次のように宣言しています、『すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており』（ローマ 3:23）。『善を行う者はいない、ひとりもない。』（ローマ 3:21）。多くの人々は自分自身の心の状態に関して欺かれています。彼らは生来の心がよろずのものよりいつわるものであり、はなはだしく悪に染まっていることを自覚していません。彼らは自らの身に自己義を巻きつけ、自分自身の人間の品性の標準に到達して満足しています。しかし、彼らは神の標準に達しないとき、なんと致命的に失敗していることでしょう。そして、彼らは自分自身では、神のご要求に到達することはできないのです。』（セクレット・メッセージ 1 巻 320）

- b. なぜわたしたち人類は、霊的な領域を識別できず、神の御国を見ることができないのでしょうか（コリント人への第一の手紙 2:14; コリント人への第二の手紙 4:4）。

「救い主も『だれでも新しく生れなければ』と仰せになりました。すなわち、新しい生涯を送るための新しい心、新しい希望、目的、動機などが与えられなければ、『神の国を見ることはできない』（ヨハネ 3:3）です。人は生れながらに持っている良いところをのぼせばよいという考えは、恐ろしい誤りです。聖書には、『生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない』（コリント第一 2:14）『あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うは及ばない』（ヨハネ 3:7）とあります。また、キリストについては『この言に命があった。そしてこの命は人の光であった』（ヨハネ 1:4）『この人による以外に救いはない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては天下のだれにも与えられていないからである』（使徒行伝 4:12）とされるされています。』（キリストへの道 15、16）

- c. わたしたちは自分自身を救うことはできない一方、何はすることができますか（マタイによる福音書 11:28-30; ヨハネによる福音書 3:3）。

「神は、キリストによって、ご自分をあらわし、『世をご自分に和解させ』ようとなされた（コリント第二 5:19）。人間は罪を犯して墮落したために、自分の力では、清く恵み深いご性質の神と調和することができなくなった。しかし、キリストは、律法の罪の宣告から人間を贖ったあとで、上からの力を人間に与えて、人間の努力とそれを結合させることがおできになるのであった。こうして神に対する悔い改めとキリストを信じる信仰によって、アダムの墮落した子らは、もう一度『神の子』（ヨハネ第一 3:2）となることのできるものであった。」（人類のあけぼの上巻 54）

- a. 使徒パウロが神のみ前にある罪人としての自分の状態を完全に知るようになったとき、彼の問題は何でしたか（ローマ人への手紙 7:12, 14, 24）。

「人はただ、神の愛といつくしみ、また、父親のようなやさしさを悟っただけでは十分ではありません。また神のおきてにあらわれた知恵と正義とをみとめ、おきてがいつまでも変らない愛の原則の上にたてられていることを認めただけでも十分とはいえません。使徒パウロはこのことをよく知って、『もし、自分の欲しない事をしているとすれば、わたしは律法が良いものであることを承認していることになる』『律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であって、正しく、かつ善なるものである』（ローマ 7:16, 12）と叫んだのですが、なおつけ加えて『わたしたちは、律法は靈的なものであると知っている。しかし、わたしは肉につける者であって、罪の下に売られているのである』（ローマ 7:14）と言ったのは、言うに言われぬ苦痛と失望があったからです。かれは純潔と正義とを求めてやみませんでした、かれ自身にはそこまで達する力はありませんでした。そしてついに、『わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか』（ローマ 7:24）と叫んだのです。こうした叫びは、どこにおいても、どんな時代にも、罪の重荷に悩む人々の心から等しくほとぼり出たものです。こうした人への答は『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』（ヨハネ 1:29）というみ言葉よりほかにはありません。』（キリストへの道 16－18）

「自分の無力をみとめている人、また神に一致するような靈的生活をあこがれ求めている人が多い。彼らはそうした生活を求めてむなしい努力をしている。…救い主は、ご自分の血であがなわれた者をのぞきこんで、言い表わしようのないやさしさとあわれみとをもって、『なおりたいのか』と言われる。」（各時代の希望上巻 245、246）

- b. ヤコブは自分が兄エサウから逃げているときに、神から捨てられたのではないということを、どの手段によって神から保証されましたか（創世記 28:10-13）。

「[ヤコブ]は、自分が放浪の身に陥ったことを感じた。そして、この苦しみは、すべて、自分のまちがった行為の結果であることを悟った。絶望の暗黒が、彼の心におしかぶさり、祈ることすらできなかつた。しかし、その極度の寂しきのなかで、これまでになかつたほどに神の保護の必要を痛感した。彼は、涙を流して深く恥じ入り、罪を告白し、自分が全く見捨てられていないという確証を願い求めた。それでも彼の重い心は軽くならなかつた。彼は全く自信を失い、祖先の神は彼を見捨てられたのではないかと感じた。

しかし、神はヤコブを見捨てられなかつた。神のあわれみは、なお、罪深い不信のしもべに注がれていた。主はヤコブをあわれみ、彼が最も必要としていた救い主を示されたのである。彼は、罪を犯した。しかし、ふたたび神の恵みに回復される道が示されたので、彼の心は感謝にあふれた。」（人類のあけぼの上巻 198、199）

- a. ヤコブが荒野で見たはしごから、どの教訓を学ぶべきですか（創世記 28:16, 17; ヨハネによる福音書 1:51）。

「この幻のなかで贖罪の計画が彼に示された。それは、十分なものではなかったが、当時の彼に必要な部分が与えられた。彼の夢のなかの神秘的なはしごは、キリストがナタナエルとの会話のなかで引用されたのと同じものであった。『天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るであろう』と彼は、言われた（ヨハネ 1:51）。人間が神の政府に反逆するまでは、神と人との間に自由な交わりがあった。しかしアダムとエバの罪が、天と地とを隔ててしまったので、人間は創造主と交わることができなくなった。ところが、この世界は、孤立した絶望のうちに放任されたのではなかった。はしごは、交わりの仲介者として任命されたイエスを代表していた。」（人類のあけぼの上巻 200）

- b. キリストの仲保が確立されたつながりを描写しなさい（ローマ人への手紙 3:23-26; ヘブル人への手紙 1:14）。

「人間は神に背いて自ら神に遠ざかり、ついに地は天より切り離されてしまいました。このだれも渡ることができない深い淵を再びつないで地と天と結びつけてくださったのはキリストです。キリストは御自らの功績によって罪の結果である深い淵に橋をかけ、奉仕の天使が人との交わりを続けることができるようにしてくださいました。キリストは、罪に沈んだ弱い無力な人間を限りない力の源につないでくださるのです。」（キリストへの道 19）

「神は、死よりも強い愛をもって、地上の子らに思いをかけておいでになります。神がひとり子をお与えになったということは、全天をそそぎだして、一つの賜物として与えたもうたということなのです。救い主の生涯、死、その執り成し、天使の奉仕、聖霊の懇願これらいっさいのものを通じて働いておいでになる父なる神と、天の住民たちの絶えざる関心などが、ことごとく人の救いのために力をそえているのです。」（同上 20）

個人的な復習問題

金曜日 7月10日

1. 墮落の前と後の人類の状態を対比しなさい。
2. 墮落後、人は何をしましたか。それはなぜですか。
3. 罪という問題に対する唯一の回答は何ですか。
4. 夢の中でヤコブに与えられたすばらしい象徴の意味を説明しなさい。
5. 神は人類と、どの伝達的手段を維持しておられますか。

悔い改め

暗唱聖句：「だから、自分の罪をめぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。」(使徒行伝 3:19)

推奨文献： キリストへの道 22 - 44 (悔い改め)

「罪に陥っても真に悔い改めて神にたち帰る者を、神は見捨てられない。」(人類のあけぼの上巻 220)

1. 罪に対する悲しみ

日曜日 7 月 12 日

a. パプテスマのヨハネは、真の悔い改めのどの証拠を求めましたか(ルカによる福音書 3:7-14)。

「悔い改めとは罪を悲しむことと罪を離れることを含みます。人は罪の恐ろしさを知るまでは罪を捨てたものではありません。心の中で全く罪から離れなければ、生活にほんとうの変化は起らないのです。」(キリストへの道 22, 23)

b. 心と生活を変える真の悔い改めについて、知っておくべきことは何ですか(コリント人への第二の手紙 7:9, 10)。

「罪についてほんとうに悲しむことは、聖霊の働きの結果である。みたまは、救い主を軽んじ悲しませた心の忘恩を示し、われわれをくださった心をもって十字架のもとに行かせる。われわれが罪を犯すたびに、イエスは新たな傷を受けられる。自分が刺したイエスを仰ぎ見るとき、われわれは、イエスに苦悩を与えた罪について悲しむ。」(各時代の希望中巻5)

「けれども人の心が神の聖霊の感化に服従するならば、良心はよびさまされ、罪人は神の聖なるおきてのいかに深くまた聖なるものであるかを悟り、これこそ天地を治めておいでになる神の政治の基礎であることを知るようになるのです。」(キリストへの道 24)

- a. ダビデが自分の罪の重さを自覚したときに、嘆願は何でしたか（詩篇 51:1-4）。

「ダビデが罪を犯した後にはささげた祈りは、罪に対する悲しみをよくあらわしています。かれはまじめに、心の底から悔い改めたのです。自分の罪を弁解しようとするのでもなければ、恐ろしい刑罰をのがれようという気持から祈ったのでもありません。ダビデは自分の罪の恐ろしさ魂の汚れを認めて、自分の罪を憎んだのです。かれが祈ったのは、罪のゆるしばかりでなく心がきよめられることでした。また聖潔の喜びを切望し、もう一度神とやわらぎ神との交わりにはいりたいと願ったのです。」（キリストへの道 25）

- b. ダビデはその真の悔い改めにより、何を求めるように導かれましたか（詩篇 51:10-13）。

『「神よ、わたしのために清い心をつくり』。これこそ、クリスチャン品性の基礎そのものにおいて正しく始めることです。なぜなら、命の泉は心から流れ出るからです。もし牧師も民も、すべての人が自分たちの心が神と正しいことに注意を払うならば、より大きな働きの結果が現れるのを見ることでしょう。あなたの働きの重要性と責任が増すほど、あなたが清い心を持つ必要性は大きくなります。必要な恵みは供給され、聖霊の力はあなたがこの方向のためになすすべての努力に伴って働きます。もし神のすべての子らがこのお方を熱心に辛抱強く求めるならば、恵みにおいてさらに大きな成長をとげるでしょう。不和はやみます。信徒たちは一つの心、一つの思いとなります。純潔と愛が諸教会に行き渡ります。ながめることによって、わたしたちは変えられます。あなたがキリストのご品性を熟考すればするほど、ますますこのお方のみかたちに一致していきます。ありのままのすがたでイエスのもとへ来なさい。このお方はあなたを受け入れて下さいます。そしてあなたの口に新しい歌、神への賛美を入れて下さいます。」（福音宣伝者 451, 452）

- c. 悔い改めとキリストへの完全な明け渡しについて、聖書は何を教えてくださいか（ローマ人への手紙 2:4; 使徒行伝 3:19; 5:31）。

「わたしたちはキリストなくしてはゆるしが与えられないのと同じように、キリストの霊が良心をよびさまさなければ悔い改めることができないのです。

キリストはすべての正しい動機の根源であって、かれのみが人の心のうちに罪を憎む心を植えつけることができるのです。真理や純潔をしたい、自分の罪深さを認めることなどはみな、キリストの霊がわたしたちの心に働いている証拠です。」（キリストへの道 28、29）

- a. 自分たちの罪の結果を悟ったときのエサウ、パロ、ユダの悔い改めの性質は、どのようなものでしたか（ヘブル人への手紙 12:16, 17; 出エジプト記 12:30-32; 14:3-5; マタイによる福音書 27:3-5）。

「悔い改めの意味のほんとうにわかっていない人が多くあります。罪を犯したことを嘆き、外面的には改める人もありますが、それはその悪事のために苦しみに会わねばならぬことを恐れるからです。しかしこれは聖書に教えられた悔い改めではありません。彼らは罪そのものよりは、むしろ罪からくる苦しみを悲しむのです。エサウが家督の権を永久に失ってしまったと気づいた時の悲しみがそうでした。…イスカリオテのユダは主を裏切ったあとで、『わたしは罪のない人の血を売るようなことをして、罪を犯しました』（マタイ 27:4）と叫びました。

ユダは、恐るべきさばきと自分の犯した罪のため、自責の念に耐えかねてこういう告白をせずにはいられなかったのですが、それは自分の身にふりかかってくる結果を恐れたためで、きずなき神のみ子を裏切り、イスラエルの聖者を拒んだことを深く心の底から悔いたものではありませんでした。パロも、神の刑罰を受けて苦しんだ時、それ以上の刑罰をのがれるため自分の罪を認めましたが、わざわいがやむと、また、前のように神にそむいたのです。これらの人々はみな罪の結果を嘆いたのであって、罪そのものを悲しんだものではありませんでした。」（キリストへの道 23, 24）

「神は、パロに神の力の最も著しい証拠をお示しになったのであったが、王はかたくなにも光を心に留めることを拒んだ。無限の力の表示をことごとく退けた彼は、反抗の決意をさらに固めた。彼が最初の奇跡を退けたときにまいた反逆の種は、その実を結んだ。」（人類のあけぼの上巻 307）

- b. 罪人が悔い改めず、将来の時まで、自分の悔い改めを遅らせるとき、どうなりますか（ヨハネによる福音書 12:35, 36; ヘブル人への手紙 3:12-15）。

「なんの準備もせずに、最後の恐るべき争闘に当面するこれらの自称キリスト者たちは、絶望して、激しい苦悶の叫びをあげて彼らの罪を告白する。そして悪人たちは、彼らの苦悩をながめて勝ち誇るのである。このような告白は、エサウやユダの告白と同じ性質のものである。これをなすものは、罪そのものではなくて、罪の結果を悲しむのである。彼らは真の悔い改めをしておらず、悪に対する嫌悪感がない。彼らは刑罰を恐れて罪を認めるのである。そして、昔のパロのように、刑罰が取り除かれるとまた天に反抗するのである。」（各時代の争闘下巻 394 筆者強調）

- a. キリストのお話の中で、パリサイ人と取税人の間には、どのような違いがありましたか（ルカによる福音書 18:10-13）。

「パリサイ人と取税人の譬の中で、『わたしはほかの人たちのよう……でないことを感謝します』という独善的な祈りは、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』という悔い改めた人の願いといちじるしい対照をなしていた（ルカ 18:11, 13）。このようにキリストは、ユダヤ人の偽善を譴責された。」（各時代の希望中巻 297）

- b. イエスは、取税人の祈りの結果について、何と言われましたか（ルカによる福音書 18:14）。

「『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』（ルカ 18:13）と祈ったあわれな取税人は、自らを大悪人であると認めました。また他の人々も同じように、かれをそう見なしていました。しかしかれは、自分の必要を感じ、罪の重荷と恥をいただいたまま神のみ前にいで、あわれみを請うたのでした。かれの心は神のみたまの恵みある働きにより、罪の力から解放されるため開かれていました。一方高ぶっておのれを義としていたパリサイ人の祈りは、聖霊の働きに対して心を閉じていたことがわかります。かれは神から遠く離れていたので、神の全き神聖さと比べてみて、自分がどれほど汚れているかを感じませんでした。そしてかれは必要を感じなかったので、何も受けることができませんでした。」（キリストへの道 35）

- c. この話を語られながら、イエスはどの破滅的な態度を正そうとされましたか（ルカによる福音書 18:9; コリント人への第二の手紙 10:12; 箴言 16:18）。

「パリサイ人の宗教は魂になんの変化も起こさない。彼は、品性が神に似てくることや、愛とあわれみの心を求めようとしない。ただ上べだけの宗教に満足している。彼の義は、自分の義、つまり、彼自身の行ないの結果であり、人間の標準によって評価されたものである。

だれでも自分はただしいと自認するものは、他を軽べつする。パリサイ人は他人を標準にして自分を評価するように、自分を基準にして他をさばくのである。彼の義は、人びとの義によって評価されるから、人びとが悪ければ悪いほど、対照的に彼のほうがただしく見えるのである。こうした自分を義とする精神をもつと、他を非難するようになる。『ほかの人たち』は、神の戒めを犯していると宣言する。こうして、彼は兄弟を訴えるものであるサタンをあらわすのである。この精神をもっているならば、神との交わりに入ることができない。」（キリストの実物教訓 131）

5. あなたの心をかたくなにしてはならない 木曜日 7月16日

- a. 確信を無視したり、応じるのを遅らせたりすることに、どのような危険がありますか（コリント人への第二の手紙 6:2; ヘブル人への手紙 3:7, 8; ルカによる福音書 12:20, 21）。

「世の中には、悪い行為を変えようと思えばいつでもできる、また、あわれみの招待を軽んじなから、なお、聖霊の声に耳を傾けることはいつでもできると思って、良心の苛責をしずめようとしている人々がたくさんいます。彼らは、恵みのみたまを侮り悪魔にくみしていても、いよいよ動くに動かれぬ窮地に陥った時には方向を変えることができるとしています。しかし、それはそうたやすくできるものではありません。一生涯の経験や教育はすっかり人の性格を形づくってしまっているのです、その時になって、イエスのみかたちを受けたいと望むものはほとんどないのです。」（キリストへの道 39、40）

- b. わたしたちが、自分の心や生活が神と調和していないことを自覚したとき、どうすべきですか（詩篇 139:23, 24; 51:10）。

「祈りと共に神のみ言葉を研究してみるならば、み言葉は神のおきてとキリストの生涯を通して、きよめという大原則を教えていることを知り、また、このきよめがなくては『主を見ることはできない』（ヘブル 12:14）ということがわかってくるのです。またそれは、罪と救いの道を明らかに示します。わたしたちは、これを神が魂に語りたもうみ声として、耳を傾けなければなりません。（キリストへの道 42）

「わたしたちは大いなる罪人でしたが、わたしたちがゆるされるためにキリストは死にたもうたので、かれの犠牲の功績はわたしたちのかわりに神の前にさざげられるに十分でした。最も多くゆるされた者がキリストを一番愛するようになり、そのみくらの最も近くに立って、その大きな愛と限りない犠牲をほめたたえるのです。神の愛がほんとうによくわかった時に、罪の深さがわかるのです。わたしたちを救うために下げられている鎖の長さを知り、キリストが身代りになって払いたもうた限りない犠牲をいくぶんでも悟るとき、心は言い知れぬ感謝にあふれ、悔いせずおれずにはおられないのです。」（キリストへの道 44）

個人的な復習問題 金曜日 7月17日

1. わたしたちが天の恵みを受けることができるように、神はどのすばらしい賜物をお与えになりますか。
2. なぜわたしたちは自分自身で真の悔い改めができないのでしょうか。
3. エサウ、パロ、ユダの悔い改めには何が欠けていたのでしょうか。
4. なぜイエスはパリサイ人と取税人の譬をお教えになったのですか。
5. 人を神との緊密な交わりのうちに入れるために最も重要な一歩は何ですか。

告白

暗唱聖句：「その罪を隠す者は栄えることがない、言い表わしてこれを離れる者は、あわれみをうける。」(箴言 28:13)

推奨文献： キリストへの道 45-52 (告白)

「心の奥底からわき出てきた告白は、限りないあわれみを持ちたもう神へ通じます。」(キリストへの道 47)

1. 神の憐れみ

日曜日 7 月 19 日

a. 罪を自覚するとき、わたしたちは何をしなければなりませんか (箴言 28:13; ヤコブの手紙 5:16)。

「神のあわれみをうける条件は簡単で、しかも正しく合理的です。神は、わたしたちの罪がゆるされるには、なにか面倒なことをしなければならないとは要求なさいません。長途の巡礼の旅に上ったり、痛々しい苦行をしたりして、天の神に自分がよく思われようと思ったり、罪の償いをしようとしなくてもよいのです。ただ罪を言い表わして、これを離れる者はあわれみをうけるのです。」(キリストへの道 45)

b. このために、わたしたちのうちに、どの態度が求められますか (箴言 15:33; 19:23; 詩篇 34:18)。

「自分の罪を認めて神の前にへりくだらない者は、神に受け入れられる最初の条件さえ果していないわけです。再び悔いることのない悔い改めをし、ほんとうにへりくだった砕けた心で罪を告白し、自分の罪悪を心から憎んでいるのでなければ、真に罪のゆるしを求めたとはいわれません。また、罪のゆるしを求めたことがなければ、神よりの平和を見いだすことはできません。わたしたちが過去の罪のゆるしを味わっていない、ただ一つの理由は、心を卑くして真理のみ言葉の条件に従っていないからで、この点について次のようにはっきりと教えられています。罪の告白は、それが公のものであっても、個人的のものであっても、真心からのものであって、十分に言い表わされなければなりません。」(同上 46、47)

- a. わたしたちがだれかに対して罪を犯すとき、どなたに対しても罪を犯していますか（詩篇 51:4）。

「使徒ヤコブは、『互いに罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい』（ヤコブ 5:16) と言っています。神のほか罪をゆるすことはできませんから、罪は神に告白しなければなりません。そして、あやまちは互いに言い表わすのです。もし友人や隣人をつまずかせたならば、自分は悪かったとこれを認めてあやまるのです。そして、これをこころよくゆるすのはその人の義務です。そうしたあとで神のゆるしを求めなさい。というのはあなたがぎずつけた兄弟は神のものですから、かれをぎずつけたことは、かれの創造主、またあがない主に罪を犯したことになるからです。」（キリストへの道 45, 46）

- b. わたしたちはなぜ他の人々を許さなければならないのですか（マタイによる福音書 6:14, 15; エペソ人への手紙 4:32）。

「許さない者は、神のあわれみを受ける唯一の通路を遮（しや）断しているのである。わたしたちを傷つけた者が、その悪を告白しないならば、彼らを許さなくともよいと考えてはならない。悔い改めと告白によって心を低くすることは、疑いなく彼らのなすべきことである。しかし、わたしたちは、彼らがあやまちは告白しなくても、わたしたちに対して罪を犯した者に対してあわれみの心を持たなければならない。どんなにひどく彼らがわたしたちを傷つけたとしても、恨みをいだき、自分の受けた危害について自己をあわれむ心を持つべきではない。神に対するわたしたちの罪を許されたいと望むように、わたしたちは、わたしたちに対して悪をなしたすべての者を許すべきである。」（祝福の山 142, 143）

- c. 何が、人類に対するわたしたちの義務を教えるべきですか（ペテロの第一の手紙 4:8; ローマ人への手紙 13:8）。

「神のいのちなるキリストをあなたのうちに住ませ、あなたを通して天来の愛をあらわし、希望のない者に希望を、罪にうちひしがれた心に天の平和を与えるようにしよう。わたしたちが神のもとに来る時、まずわたしたちが会おう条件は、自分が神からあわれみを受けたのであるから、他の人々に神の恵みをあらわすために自己をささげることである。」（同上 144）

「人間同志の不人情はわたしたちの最大の罪である。多くの人はキリストの優しい、偉大な愛を少しも表わさずに、神の正義を示していると思っている。厳格、苛酷に取り扱っている相手が誘惑に苦しんでいることもよくある。サタンは、こういう人と戦っているのであって、荒々しい不親切な言葉によって彼らは失望し、誘惑する悪魔の力に負けて、その捕虜となってしまう。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 137）

- b. 神だけに告白する罪がある一方、どの罪は公に告白しなければなりませんか（詩篇 32:5; マタイによる福音書 5:23, 24）。

「真の告白はつねに、はっきり自分の犯した罪そのものを言い表わすのです。神にだけ告白すべきものもありましょう。または、だれか害をこうむった人々に告白しなければならないものもありましょう。あるいは公のものであれば、公に告白しなければならないこともありましょう。いずれにせよ、告白はすべてはっきりとその要点にふれていて、犯した罪そのものを認めねばなりません。」（キリストへの道 47, 48）

「個人的な性質の罪は、神と人との間の唯一の仲保者であられるキリストに告白されるべきです。…すべての罪は、神に対する攻撃であり、キリストを通して神に告白されなければなりません。すべての公の罪は、公に告白されるべきです。」（福音宣伝者 216）

- a. 真の告白の目的は何ですか（サムエル記上 12:19）。

「イスラエルの人々は、サムエルの時代に神より迷い出て、罪の結果に苦しまねばなりません。それは彼らが、神への信仰と、神は知恵と能力をもって国を治めたもうということを見失い、そのうえ、神は、ご自身の働きをあくまで守りたもうということを信じなくなったからです。彼らは宇宙の大いなる統治者を離れ、周囲の国々と同じような統治者を望んだのです。しかし平和を得るためには、次のようなはっきりした告白をしなければなりません。『われわれは、もろもろの罪を犯した上に、また王を求めて、悪を加えました』（サムエル記上 12:19）と。つまり、悪かったと自覚したその罪が告白されねばならなかったのです。」（キリストへの道 48）

- b. どのような実際的な行動が告白に続くべきですか（イザヤ書 1:16, 17; エゼキエル書 33:15）。

「まじめな悔い改めと改革が伴わない告白は、神に受け入れられることはできません。はっきりとした変化が生活にあらわれ、神のきらいなもうすべてのものを捨てねばなりません。ほんとうに罪を嘆いた結果はそうなるのです。」（同上 48）

「悔い改めた魂はみな、ザアカイのように、自分の生活に目立っている不正な習慣を放棄することによって、キリストが心の中にはいられたことを表明する。この取税人のかしらのように、彼は損害を償うことによって誠実心を証明する。」（各時代の希望中巻 378）

- a. 主がアダムとエバに彼らの罪についてお尋ねになったとき、彼らは、どのように本当は自分たちの過失ではないということを示唆しましたか (創世記 3:12, 13)。

「アダムは、自分の罪を否定し、言いわけをすることもできなかった。彼は、悔い改めの精神をあらわす代わりに、彼の妻を非難し、ひいては、神ご自身の責任にした。『わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです』」(創世記 3:12)。(人類のあけぼの上巻 46〔筆者強調〕)

「アダムとエバは、禁断の木の実を食べた後、言うに言われぬ恐れを強く感じました。最初には、どうして自分たちの罪の言いわけをして、恐ろしい死の宣告をのがれようかと考えました。神が彼らの罪をただしたもうた時、アダムはその罪をなかば神に、なかば自分の同伴者に負わせて『わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです』と答え、女はその責めをへびに負わせて『へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました』(創世記 3:12, 13)と申しました。どうしてあなたはへびをお造りになったのですか、どうしてへびをエデンの園にお入れになったのですかという質問がこの罪の言いわけのうちに含まれているのであって、彼らの墮落の責任は神にあると言っているのです。」(キリストへの道 50)

- b. なぜ自己義認は、告白を効果のないものにするのですか (ヨブ記 9:20; ルカによる福音書 16:15)。

「おのれを義とする精神は、いつわりの父である悪魔よりきたもので、アダムのむすこ、娘はみなこの精神を表わしました。こうした告白は聖霊に動かされたものではありませんから、神に受け入れられることはできません。真の悔い改めは、自分の罪を自分で負い、なんの虚飾も偽善もなく、罪を認めるのです。」(同上 50, 51)

「わたしたちは罪の言いわけをして自分の罪を軽くしようとしてはならない。わたしたちは、罪についての神の評価を受け入れなければならない。それは実に重いものである。カルバリーのみが罪のいかにおそるべきものかを明らかにする。もしわたしたちが、自分の罪を負わなければならないのであれば、それはわたしたちを打ち砕くことであろう。しかし、罪なきかたがわたしたちに代わってくださった。不義を受けるべきかたではないのに、主はわたしたちの不義を負われた。『もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる』(ヨハネ第一・1:9)。なんと輝かしい真理であろう。神はご自身の律法に対して義でありながら、なおイエスを信じるすべての者を義とされるおかたなのである。『だれかあなたのように不義をゆるし、その嗣業の残れる者のために、とがを見過ごされる神があらうか。神はいつくしみを喜ばれるので、その怒りをながく保たず』(ミカ書 7:18)。(祝福の山 145, 146)

- a. パウロは、どのようにへりくだって、自分の罪を具体的に認めましたか（使徒行伝 26:10, 11）。

「神のみ言葉には、悔い改めとけんそんの実例があげられていますが、そこには罪の言いわけをしたり、自己を正しとするようなことの少しもない、真心からの告白の精神が見られます。パウロは、自分を弁護することなく、自分の罪をその恐ろしいままに描き、罪をいくらかでも軽くしようなどとは考えませんでした。〔使徒行伝 26:10, 11 引用〕。」（キリストへの道 51、52）

- b. パウロは、テモテへの第一の手紙の中で、何を宣言しましたか（テモテへの第一の手紙 1:15）。

「わたしたち自身のうちには、欠点以外何も見られず、神にとって魅力のあるものは何も見られない。サタンは、むだだ、品性の欠陥を改めることはできないとわたしたちに告げる。わたしたちが神のもとに来ようとする時、敵は、祈ってもむだだ、あなたはあの悪事をしたではないか、あなたは神に対して罪を犯し、自己の良心にそむいたのではないかとささやくであろう。しかしわたしたちは、『御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである』と敵に告げることができる（ヨハネ第一 1:7）。わたしたちが罪を犯した、祈ることができないと感じる時こそ、まさに祈るべき時なのである。恥じ、誇りをいたく傷つけられているかも知れないが、祈り、かつ信じなければならぬ。〔テモテ第一 1:15 引用〕。…許し…は、…わたしたちに対する賜物であって、それが与えられる根拠は、キリストのしみのない義のうちにあるのである。」（祝福の山 144、145）

- c. もしわたしたちが自分の罪を告白するなら、神は何を約束しておられますか（ヨハネの第一の手紙 1:9）。

「真に悔い改め、けんそんになった心は神の愛のいくぶんかを悟り、カルバリーの十字架の犠牲を心から感謝してやみません。そして子供がやさしい父親に告白するように、ほんとうに悔い改めた者は神の前に自分の罪をみなもちぎります。〔ヨハネ第一 1:9 引用〕としるされているのです。」（キリストへの道 52）

個人的な復習問題

金曜日 7月24日

1. 忠実に自分の罪を神に告白するとき、わたしたちはこのお方の前にどのように立ちますか。
2. どのような状況の中で、ある告白は、他の人々に対してなされなければなりませんか。それはなぜですか。
3. 告白が具体的であることは、なぜ重要なのですか。
4. 自己義認の危険性を述べなさい。
5. 謙遜な告白の結果は何ですか。

第一安息日献金 世界総会教育支部

「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言 22:6)

わたしたちは厳肅な時代に生きています。ますます世俗化が進む社会の中で、子どもたちや若者たちに主への畏敬の念を教え込む責任は、かつてないほど切実なものとなっています。親として、教育者として、そしてキリストの体の一員として、私たちは信仰を堅固に、謙遜に、そして確信をもって守り抜くことができる世代を育成するという神聖な使命を担っています。

「真の教育の科学は真理である。それは魂に非常に深く印象づけられ、至る所に蔓延する誤謬によって消されることができないようにされなければならない。」(教会への証 6 巻 131)

こうした状況を踏まえ、世界総会教育部は世界中の伝道学校の強化と拡大に尽力してまいりました。多くの教育センターは、適切なインフラ、現代的なカリキュラム、そして生徒たちの霊的な現実に即した教材が不足しています。さらに、いくつかの国からは、学術的な知識だけでなく、永遠の福音の原則をも促進する新たな教育機関の開設を求める声が上がっています。

そこで、この特別献金は、以下の 3 つの主要分野を支援します。

1. 既存の伝道学校の再編。
2. SDARM キリスト教教育を受ける必要がある地域に、新たな学校を設立すること。
3. 当教育チームが開発した教育教材の翻訳・翻案プロジェクトを推進し、様々な言語や文化的背景を持つ世俗学校と宣教学校の両方で活用できるようにする。

「真の教育とは伝道者を養成することであって、神のむすこ、娘はすべて伝道者となるように召された者である。わたしたちは神と人々に奉仕するために召されている。そしてこの働きに適した者となることが、わたしたちの教育の真の目的でなければならない。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング 364)

ですから、親愛なる兄弟姉妹の皆さん、どうか寛大さと宣教の精神をもって献金を捧げてください。子どもたちや若者の教育に投資することは、教会の未来、福音の宣教、そして最終的な収穫への投資なのです。

主があなたの貢献を何倍にも増やし、この重要な働きを強めてくださいますように。そして、私たちの学校が真に暗闇の中で輝く光となり、救い主の再臨に備える忠実な世代を育成することができますように。

世界総会教育支部

献身

暗唱聖句：「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、」（エレミヤ書 29:13）

推奨文献：キリストへの道 53-61（献身）

「われわれは、自分の力で戦い続けることはできない。そして、心を神からそらし、自己高揚と自己依存に陥れるものは何であっても、必ず、われわれを敗北させるものである。聖書は、人間の能力にたよらず、神の力にたよることを奨励するのをその主題としている。（人類のあけぼの下巻 414、415）

1. 自己に対する戦い

日曜日 7月26日

a. パウロはクリスチャンの戦いとそのために必要な武具を、どのように述べましたか（エペソ人への手紙 6:12-18）。

「サタンは、最も激烈で狡猾な誘惑をもってキリストを攻撃したが、そのたびに撃退された。それらの戦いは、われわれのための戦いであった。そしてそれらの勝利は、われわれにも勝利を得させるのである。キリストは、求めるすべての者にかをお与えになる。だれでも、自分が同意せずにサタンに敗北することはない。誘惑者サタンは、人の意志を支配したり、強制して罪を犯させたりすることはできない。彼は、われわれを悩ますことはできるが、汚すことはできない。苦悩を与えることはできて、汚辱することはできないのである。キリストが勝利されたという事実は、彼に従う者たちに、罪とサタンに対して雄々しく戦う勇気を与えるものである。」（各時代の争闘下巻 250）

b. サタンは、どこで、完全な支配権を得ようとしていますか（箴言 4:23）。

「人間は、その心に思うとおりの人がらになっていく（箴言 23:7 文語訳参照）。心は天の恵みによって新たにされるのでなければ、生活のきよめを求めても無益である。キリストの恵みとは関係なしに、気高く正しい品性を築こうとする者は、くずれる砂の上に家を建てているのである。それは、激しい誘惑のあらしが襲ってくると、倒れるにきまっている。」（人類のあけぼの下巻 74）

- a. キリストの弟子となるためには、何をやめなければなりませんか（ルカによる福音書 14:33; マタイによる福音書 6:24）。

「神におのれをささげするには、わたしたちを神から引き離すものをすべて捨てなければなりません。ですから、『あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない』（ルカ 14:33）と救い主は仰せになっているのです。たとえ、どんなものであっても神から心を引き離すようなものは捨てなければなりません。多くの人は富を偶像にしています。金を愛し富を欲することは彼らを悪魔につなぐ黄金のくさりです。ある人々は名声や世間的な榮譽を神としています。また、なんの責任も負わず、利己的な安楽な生活を偶像にしている人もいます。けれども、こうしたどれいものきずなは断ち切らねばなりません。わたしたちは、なかば神に、なかば世につくことはできません。全く神のものでなければ神の子供ではないのです。」（キリストへの道 55）

- b. 主は、心と生活が新たにされることを願うすべての人に、どの神聖な招きを差し伸べておられますか（イザヤ書 1:18; エレミヤ書 29:13; ヤコブの手紙 4:7-10）。

「神の政府は盲従を要求し、不合理な統制を行おうとするものであると悪魔はわたしたちに思わせようとしますが、そうではありません。それは知性と良心に訴えるものです。… 神は決して造られた者の意志を強いたりなさいません。真心より、自らよく理解したうえでの服従でなければ、神は受け入れたまいません。単なる強制的服従は知性や品性の真の発達を妨げるものであって、人をひとつの機械人形にしまいます。創造主はこのようなことを望みたまいません。神は創造の極致である人間が最高の発達を遂げることをお望みになります。神はわたしたちの前に最高の祝福をおきたもうて、恵みによってわたしたちをそこまで導こうとなさいます。またわたしたちのうちにかれのみ心を行うことができるように、おのれを神にささげよとすすめたまいます。罪のきずなから放たれて、神の子としての栄えある自由を味わうか否かは、わたしたちの選択いかんにかかっています。」（同上 54、55）

「キリストは人の救い主として現れました。民は自分自身の働きに、自分自身の義に、あるいは何らかの形で自分自身に信頼をおくのではなく、世の罪を取り除く神の小羊に信頼しなければなりません。このお方のうちに御父への仲保者があらわされています。このお方を通して、次の招きが与えられています、『主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。』これは今日わたしたちのところにまで届き、鳴り響いています。だれも誇りや自己評価、または自己義によって、自分の罪を告白せずにいることがないように。それによって約束をわがものと主張できるためです。」（クリスチャン教育の基礎 239）

- a. キリストにご自分の子らを天に連れて行く権利を与えたものは何でしたか（コロサイ人への手紙 1:14; ヘブル人への手紙 7:25）。

「恐ろしい暗黒のさなかに、神に見すてられたようにみえる中であって、キリストは人間の苦悩のさかずきを最後の一滴まで飲みほされた。その恐るべき時に、主は、ご自分が天父に受け入れられたことについて、これまで与えられていた証拠によりたのまれた。イエスは天父の性格をよく知っておられた。イエスは天父の正義、あわれみ、大きな愛をわかっておられた。父に従うことがイエスのよるこびであったが、信仰によってイエスは父に信頼された。こうして、服従のうちにご自分をまったく神にまかせられたときに、天父の恩恵が失われたという意識はなくなった。信仰によってキリストは勝利者となられた。」（各時代の希望下巻 279）

「キリストという賜物を通して、神は全天をお与えになった。人間的な見地からすれば、このような犠牲はでたらめな浪費であった。人間の考えでは、救いの計画全体はあわれみと資源の浪費である。どちらを向いても克己と全心全霊の犠牲が見られる。人類家族が、キリストのうちにあらわされている限りない愛によって高められ豊かにされることをこぼむのを見て、天使たちが驚くのも無理はない。天使たちが、これは何という大きなむだだろうと叫ぶのもつともである。

しかし失われた世界のあがないは、欠けるところがなく、豊富で、完全なものとなるのであった。キリストの献げ物は非常に豊かで、神が造られたすべての魂にとどくのであった。この大いなる賜物であられるイエスを受け入れたいと望む人の数を越えないように制限することはできなかった。すべての人が救われるとはかぎらない、あがないの計画は、豊富に用意されていることが全部達成されないからといってむだになるのではない。有りあまるほど十分なければならないのである。」（同上中巻 391、392）

- b. イエスはご自分の子になりたいと願ひ、ご自分の御霊を受けることができるようになりたいすべての人に何を要求なさいますか（箴言 23:26）。

「〔イエス〕はわがままな者の告白を聞き、彼らの悔悟を受け入れようと憐れみ深いやさしさをもって待つておられます。このお方は母親が愛する子供が自分を認めてほほ笑むのを待つように、彼らから何らかの感謝が戻ってくるのを見守っています。偉大なる神はわたしたちにご自分を父と呼ぶようにお教えになります。このお方はご自分の心がどれほど真剣にやさしく、わたしたちのあらゆる試練や誘惑にあつて、わたしたちを慕い求めておられるかを理解してほしいと思つておられます。」（福音宣伝者 210）

「わたしたちがすべてをささげると言つても、いったいなにをささげるのでしょうか。それは、イエスにきよめられ、その血によって洗われ、かれの無比の愛によって救われるためにささげる罪に汚れた心だけです。それなのに人々は、それを捨てがたいと思つています。私はそういう話を聞き、また書くことさえ恥づかしいのです。」（キリストへの道 58）

- a. パウロが信徒たちのために真剣に願っていたことは何でしたか（ローマ人への手紙 12:1; テサロニケ人への第一の手紙 5:23）。

「昔のイスラエルに話してはいますが、これらの言葉には、今日の神の民のための教訓が含まれています。使徒が自分の兄弟たちに、自分のからだを『あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として』提示するように訴えるとき、彼は真の聖化の諸原則を説明しています。それは単なる理論ではなく、感情ではなく、言葉の形式ではなく、生きた活動する原則であり、毎日の生活に入ってくるものです。それはわたしたちの食べること、飲むこと、着ることの習慣が、身体的、精神的、道徳的な健康が維持されるようになることを要求します。主にわたしたちの体を、悪習慣によって墮落した捧げ物ではなく、『神に喜ばれる、生きた、聖なる』捧げ物として提示するためです。」（きよめられた生涯 27, 28）

「われわれは自らを神の礼拝のためにささげなければならない。そして、この供え物をできるだけ完全に近いものとするように努めるべきである。神は、われわれのささげ得る最善のものでなければお喜びにならないのである。心から神を愛する者は、生涯の最上の奉仕を神にささげたいと望み、神のみこころを行なう能力を増進する律法に、自分たちの持っているあらゆる力を調和させようと絶えずつとめるのである。」（人類のあけぼの上巻 415）

- b. 群衆がペンテコステの日に、ペテロの説教を聞いたとき、彼らの心にあつた重荷は、何でしたか（使徒行伝 2:37, 38）。

「〔群衆〕は、十字架につけられたのは神のみ子であったという弟子たちの言葉を聞いている。祭司や役人たちは震えおののいた。人々は罪の自覚と苦悩におそわれた。人々はこれを聞いて、強く心を刺され、ペテロやほかの使徒たちに、『兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか』と言った。弟子たちの言葉を聞いていた人々の中に信心深いユダヤ人もいた。彼らは真心から信じていた。語る者の言葉に力が伴い、イエスこそ本当にメシヤであるということに彼らは得心した。...

ペテロはその罪意識に苦しんでいる人々に、彼らは祭司や役人たちにだまされてキリストを拒んだのである。だから、もし彼らがなおもこれらの人々の勧告をあてにして、祭司や役人たちがキリストを認めないうちは、自分たちも認めようとしないうことであれば、彼らは決してキリストを受け入れるようにはならないであろうと熱心に訴えた。これらの有力者たちは、聖職についていても、世的な富や榮譽にあこがれていた。彼らは進んでキリストのところに来て、光を受けようとしなかった。」（患難から栄光へ上巻 38, 39）

- a. わたしたちが完全に主に献身でき、キリストのかたちを身につけることができるといふ確信をもたらずものは何ですか（ピリピン人への手紙 2:12, 13）。

「神は約束を実行しないのではなかろうか、または忍耐と同情に欠けているのではなかろうかと、心配せよとは言っておられない。それよりもあなたは、自分の意志をキリストの意志に従わせているかどうか、また、あなたの先天的および後天的性質が、自分の生活を支配していないかどうかをよく考えなければならない。『あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神で』ある。偉大な働き人であられる主とあなたの魂との間に自己をさしはさんでいないか、また、神があなたによって完成しようと望んでおられる大目的を利己的な意志によって、さまたげてはいないかを注意すべきである。わたしたちは自己の力にたより、キリストのみ手を離して、主のお導きを仰がずに人生の旅路を歩こうとすることのないように気をつけなければならない。」（キリストの実物教訓 141、142）

- b. 信仰の堅固さと正しい諸原則への完全な明け渡しは、どのように維持することができますか（ガラテヤ人への手紙 2:20; マタイによる福音書 16:24, 25）。

「きよめの祝福を受けようとする人たちは、まず自己犠牲の意味を学ばなければならない。キリストの十字架は、『永遠の重い栄光』のかかる支柱である。」（患難から栄光へ下巻 263）

「わたしたちは自分の心を変えたり、また自分で愛情を神にささげることができません。けれども神に仕えようと選ぶことはできます。意志は神にささげることができます。そうすれば神はわたしたちのうちにお働きになって、神の喜びたもうように望み、また行おうようにしてくださいませ。…

意志を正しく働かせるならば生活は全く変わってしまいます。意志をキリストに全く服従させることによって、どんな主義よりも力よりも、はるかにまさった力に自分を結びつけることになるのです。そして天よりの力をえてしっかりと立つことができ、絶えず神に服従することによって新しい生涯、すなわち信仰の生涯を送ることができるようになるのです。」（キリストへの道 60、61〔筆者強調〕）

個人的な復習問題

金曜日 7月31日

1. わたしたちの魂の敵に対する戦いにおいて成功のために、何が必要ですか。
2. すでに打ち負かされた敵に対して勝利を得るために、何が本当の戦いですか。
3. わたしたちの救いのためにキリストの賜物から、何を学ぶことができますか。
4. 信徒たちのために、身体的にも霊的にも、神のご目的は何ですか。
5. もしわたしたちの意志が、神の意志に一致しているなら、日々、何を経験するようになりますか。

信仰と受け入れ

暗唱聖句：「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。」(エゼキエル書 36:26)

推奨文献： キリストへの道 62-72 (信仰)

「過去の罪をあがなうことも、自分の心を変えることも自分自身をきよくすることもできません。」(キリストへの道 65)

1. 許しと平安

日曜日 8月2日

a. 何が神のすばらしいゆるしと平安の約束ですか (ヨハネの第一の手紙 1:9)。

「動機は不純で心は不潔で、自分の生活は全く利己心と罪ばかりであることを知り、なんとかしてゆるされきよめられて、自由になりたいと望むのです。神と調和し神に似るにはいったい何をすればよいのでしょうか。

あなたに必要なものは平和です。つまり天のゆるしと平和と愛を心にいただくことです。それは金で買うことも知識で達することも、また知恵で手に入れることもできません。自分の力では絶対に手に入れることは望めないのです。けれども神は、これを『金を出さずに、ただで… 買い求』(イザヤ書 55:1) むべき賜物として与えたものですから、ただ手をのばしてそれをつかみさえすれば自分のものとなるのです。」(キリスト道 62、63)

b. 存在全体を神との調和のうちに新しき人に変えるというもう一つの重要な約束は何ですか (エゼキエル書 36:26)。

「あなたは自分の罪を告白して、心よりこれを捨て去り、神に自らをささげようと決心なさいました。ですから今、神のもとに行き罪を洗い去って新しい心を与えたまえとお願いなさい。そして、神がお約束なさったのですから、そうしてくださると信じなさい。これはイエスのご在世の時に教えたもうた教訓であって、神がわたしたちにお約束になった賜物は得たりと信じるときに、わたしたちのものとなるのです。」(同上 63〔筆者強調〕)

- a. イエスはベテスダの中風患者に何をしようとお命じになりましたか。またこの経験から、何を学ぶことができますか（ヨハネによる福音書 5:1-9）。

「ベテスダの中風患者のことを考えてみましょう。哀れな病人は、三十八年もからだの自由を失っていたのです。しかしイエスは、『起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい』と仰せたまいました。この病人は、『主よ、もし私をいやしてくださいならばみ言葉に従います。』とも言えたでしょう。しかしかれは、キリストのみ言葉を信じ、自分がいやされたと思っていてすぐに立って歩こうとしました。歩こうとしたときに実際に歩くことができたのです。かれはキリストのみ言葉に頼って行動しましたので、神はかれに力を与え、かれはすっかりいやされたのです。」（キリストへの道 64、65〔筆者強調〕）

「イエスは彼に神の助けについて何の保証もお与えになっていなかった。その男はちょっと考えてみて疑い、一度のいやしの機会を失ったかも知れなかった。だが彼は、キリストのみことばを信じ、みことば通りに行動することによって力を受けた。

同じ信仰によって、われわれも霊的ないやしを受けられる。罪のために、われわれは神のいのちから切り離された。われらの魂は麻痺している。ちょうどあの不具の男がひとりでは歩くことができなかつたように、われわれもひとりでは きよい生活を送ることができない。自分の無力をみとめている人、また神に一致するような霊的生活をあこがれ求めている人が多い。彼らはそうした生活を求めてむなしい努力をしている。そして絶望のうちに、『わたしは、なんとというみじめな人間なのだろうか、だれか、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか』と叫ぶ（ローマ 7:24）。こうした絶望のうちにもがいている人々は、上を見あげるがよい。救い主は、ご自分の血であがなわれた者をのぞきこんで、言い表わしようのないやさしさとあわれみをもって、『なおりたいのか』と言われる。主はあなたに、健康と平安のうちに立ちあがりなさいとお命じになる。」（各時代の希望上巻 245、246）

- b. キリストを通して、罪人に何が約束されていますか（歴代志下 7:14; ホセア書 14:4）。

「過去の罪をあがなうことも、自分の心を変えることも自分自身をきよくすることもできません。しかし神は、こうしたことをすべてキリストを通してしてくださいとお約束なさいました。あなたはまずそのみ約束を信じ、罪を告白し、自らを神にささげて、神に仕えようと決心しなければなりません。これを実行しさえすれば必ず神はそのみ約束を果してくださいなのです。神のみ約束を疑わず、ゆるされ、きよめられたと信じさえすれば、神はそれを事実としてくださるのです。中風の病人がいやされたことを信じたとき、キリストが歩く力をお与えになったと同じようにあなたはいやされるのです。信ずるごとくなるのです。

いやされたと感じるまで待つてはなりません。そして『信じます。いやされています。私がそう感じるからではなく、神がこれを約束したもうたからです』と言いましょ。』（キリストへの道 65、66〔筆者強調〕）

- a. イエスが救い主として受け入れられるとき、過去の罪はどうなりますか（ローマ人への手紙 3:24, 25; 5:1, 9, 10）。

「イエスは『なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう』（マルコ 11:24）と仰せになりましたが、このみ約束には条件が一つあります。それは神のみ旨に従って祈るということです。けれども、わたしたちの罪をきよめ、神の子らとしてきよい生活を送らせようとなさるのは神のみこころです。ですから、これらの祝福を願い求め、それを受けたと信じて神に感謝してもよいのです。イエスのもとにきてきよめられ、恥ずるところなくおきての前に立つことができるのはわたしたちの特権です。」（キリストへの道 66〔筆者強調〕）

- b. 神のみ前に信徒はどのように立ちますか（ローマ人への手紙 8:1）。

「キリスト者の生涯は、謙遜がその特徴であるが、悲しみや自己を卑下する気持ちがあってはならない。神に受け入れられ祝福されるような生活することは、すべての者の特権である。われわれが、常に罪の宣告と暗黒のもとにあることは、われわれの天の父のみこころではない。頭をうなだれて、自分のことばかりを考えているのは、真の謙遜の証拠ではない。われわれは、イエスのところへ行つて、清められ、律法の前にはばかることなく立つことができるのである。」（各時代の大争闘下巻 207, 208）

「わたしたちが余すことなく自らを神に明け渡し、完全に信じる時、キリストの血がすべての罪から清めます。良心は呵責から解放されます。このお方の血を信じる信仰を通して、すべての人がキリスト・イエスのうちに完全にされることができます。…わたしたちはキリストや神が自分のことをどう思われるかを案ずる必要はありません。むしろ、神がキリスト、すなわちわたしたちの身代わりをどう思われるかについて考えなさい。あなたがたは愛するお方のうちに受け入れられるのです。」（セクテッド・メッセージ 2 巻 32, 33）

- c. 神とのこの契約関係に入ったすべての人は、どのような変化を認めるべきですか（ペテロの第一の手紙 1:18, 19; コリント人への第一の手紙 6:19, 20; ガラテヤ人への手紙 3:26）。

「ですから、わたしたちは自分のものではなく、価をもって買われたものです。『あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によつたのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によつたのである』（ペテロ第一 1:18, 19）とあります。神を信ずるこの簡単な行為によつて、聖霊はわたしたちの心に新しいいのちを与えたまいます。わたしたちは神の家族の子供として生れたのです。ですから、神はみ子を愛したもうと同様にわたしたちを愛してくださるのです。」（キリストへの道 66, 67）

- a. 信徒は、自らどのようにふるまうことが期待されていますか（コロサイ人への手紙 2:6）。

「さて、あなたは自分をキリストにささげたのですから、退いたり、また自分を取りもどしたりしてはなりません。ただ日ごとに『私はキリストのものです。私は自分をキリストにささげました』と言って、聖霊を与えられ、かれの恵みによってささえられるよう祈りましょう。おのれを神にささげ、神を信じる時神の子となるのですから、そのように神にあつて生活しなければなりません。使徒パウロも、『あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあつて歩きなさい』（コロサイ 2:6）と申しました。

世には、自分たちは試験されているのであつて、心を改めたことを証拠だてなければ、神の祝福をいただくことができないと考えている人々がいます。しかし今すぐにも祝福を求めて受けることができます。神の恵み、キリストの霊を受けておのが弱きを補うのでなければ悪に抵抗することはできないのです。イエスはわたしたちが罪に汚れるべのないままで、みもとに行くのをお喜びになります。わたしたちは、弱さ、愚かさ、罪深さなどをみなもったまま悔いの涙をもって、主の足もとにひざまずいてよいのです。主は愛のみ手のうちにわたしたちをいだき傷をつつみ、すべての汚れからきよめることをご自身のほまれとなしたまいます。」（キリストへの道 67、68）

- b. 学ぶ過程で犯す過ちのために、どのような備えがなされていますか（ヨハネの第一の手紙 2:1, 2）。

「だれでも条件に従うならば、いかなる罪のゆるしも価なく与えられることを、はっきり知ることができるのです。神のみ約束は、自分のためではないなどという疑いは捨てねばなりません。このみ約束は、悔い改める罪人一人びとりのためです。キリストが備えていたもう能力と恵みは、み使によって、信ずる魂一人びとりに与えられます。どんなに罪深いからと言っても、彼らのために死にたもうたイエスから能力と純潔と義とを受けることができないという人はありません。イエスは罪に染んで汚れた衣をぬがせて、義の白い衣を着せようと待っておいでになります。死ぬることなく、生きよと招いておいでになるのです。」（同上 68、69）

- c. この旅路において、どのように強められるか、説明しなさい（ヨハネの第一の手紙 1:7; ガラテヤ人への手紙 5:16, 17, 25）。

「知恵の道を歩く者は、困難の時にも大きな喜びがある。彼らの魂の愛する主が、目には見えないが彼らのそばを歩まれるからである。一步高くのぼるごとに、一そうはつきりとイエスのみ手が触れるのを感じる。一步一步、見えないおかたから来る一そう輝かしい栄光のきらめきが彼らの道を照らすのである。そして彼らの賛美の歌は、一そう調子を高めて天へのぼり、みくらの前の天使たちの歌とひとつになるのである。」（祝福の山 175）

- a. 神によって受け入れられる条件は何ですか (イザヤ書 55:7; 44:22)。

「神は人間がお互をあしらうようにわたしたちをあしらいたいません。かれは愛とあわれみといつくしみ豊かな神です。」(キリストへの道 69)

「神の譴責を受けたときに、けんそんに罪を告白して悔い改める者は、だれでもダビデのように希望をもつことができるのである。信仰をもって神の約束を受け入れるものは、だれでも許されるのである。主は、真に悔い改める魂をひとりでもお捨てにならない。」(人類のあけぼの下巻 430)

- b. 道を外れているすべての人に対するわたしたちの天父のほんとうの態度は、どのようなものですか (エゼキエル書 18:32; ルカによる福音書 15:18-20)。

「悪魔は、この尊い神よりの保証を奪い去り、人の心から希望と光を消し去ろうとしていますが、そうさせてはなりません。試みる者に耳をかすことなく、イエスは私が生きるために死んでくださったのです。かれは私を愛し、私の滅びるのを好みたくありません…と言いなさい。…このたとえは、さ迷い出た者がいかに迎えられるかを次のように語っています。〔ルカ 15:18-20 引用〕。

これは実に優しく、人の心を動かさずにはおかぬ物語ではありますが、これだけでは、まだ天の父の限りないあわれみを十分にあらわしては**いません**。主は預言者を通し、『わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた』(エレミヤ書 31:3) と仰せになりました。罪人がまだ父の家から遠く離れた異国で財産を浪費しているとき、父の心はその子の身の上を案じておいでになります。そして神へ帰りたいという気持をかれの心に起させるのはみな、聖霊のやさしい訴えの声であって、さ迷いでた者へ熱心に話しかけ、哀願し、父なる神の愛の心に引きつけようとしていたもうのです。」(キリストへの道 69 - 71 [筆者強調])

個人的な復習問題

金曜日 8月7日

1. 罪が許された人の心には何が入りますか。
2. ベテスダの中風患者は、なぜ急に歩けるようになりましたか。
3. わたしたちがキリストを自分の救い主として受け入れるとき、どの約束がわたしたちのものですか。
4. キリストと共にいく勝利の歩みの秘訣は何ですか。
5. サタンの悪意と御父の贖いの愛の対比を述べなさい。

弟子としての証拠

暗唱聖句：「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」(コリント人への手紙第二 5:17)

推奨文献： キリストへの道 73 - 87 (弟子としての証拠)

「品性はときどきの善行とか過ちでわかるのではなく、日常の言動の傾向によって知ることができるのです。」(キリストへの道 74)

1. 御霊の働き

日曜日 8月9日

a. キリストは改心の働きを述べられる中で、どのような教訓をお教えになりましたか (ヨハネによる福音書 3:5-8)。

「人は、いつどこで悔い改めたか、あるいはどんな段階をふんで回心したかを、はっきりと語ることはできないかも知れませんが、それであるからと言ってその人が悔い改めていないとは言えません。…風は目には見えませんが、風の通った結果は、はっきりと見たり感じたりすることができます。聖霊が人の心に働くのも、ちょうどそのとおりです。人の目には見えませんが、再創造の力が魂に新しいいのちを与え、神のみかたちに従って新しい人を造るのです。」(キリストへの道 73、74)

b. 真に改心した人の生活にはどのような変化が現れますか (ローマ人への手紙 12:9-18; コリント人への第二の手紙 5:17)。

「わたしたちはどんなにしても自分の心を変えたり、神と調和したりすることはできないのです。また自己や自分の良い行いに頼ることもできませんが、心のうちに神の恵みをやどしているかどうかはわたしたちの生活に現われてきます。性格に、習慣に、いっさいの行動に変化が起りますから、過去と現在との間にはっきりと決定的な対照が見られるようになります。…

別にキリストの力によって新たにされないでも、外見だけは正しい行いをする人のあることは事実です。自分の勢力を張ろうと思ったり、他人からよく思われたいと望んで規律しい生活をすることもできます。また自尊心が悪と思われることを避けることもありましょう。あるいは利己主義な人が、情深い行為をすることもありましょう。では、わたしたちがどちらの側に立っているかを、どんな方法ではっきり決めることができるでしょうか。

わたしたちの心を支配しているのはだれでしょうか。わたしたちはだれのことを考えているでしょうか。」(同上 74、75)

- a. 御霊に満たされた者はどのような実を結びますか (ガラテヤ人への手紙 5:22, 23)。

「キリスト・イエスにあつて新たに造られた者はみたまの実を結びます。…以前にはぎらっていたものを今は愛するようになり、かつて愛していたものはきらうようになります。高慢、不遜な人は、柔和、けんそんになります。軽佻浮薄な人はまじめに控え目になり、酒に酔う者はそれをやめ放蕩者は純潔になります。世的なむなししい習慣や流行を追う気持はなくなり、クリスチャンは『外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない』(ペテロ第一・3:3、4) 飾りを求めるようになります。」(キリストへの道 75、76)

「聖霊の感化は、魂の中にあるキリストの命である。われわれはキリストを見ないし、このお方と話すこともないが、このお方の御霊はどこにしようともわれわれの近くにおられる。それはキリストを受け入れるすべての者のうちに働き、また彼らを通して働く。聖霊の内住を知っている人々は御霊の実—愛、喜び、平和、忍耐、寛容、善意、信仰—を表すのである。」(SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1112)

- b. 真の悔い改めの証拠は何ですか (エゼキエル書 33:14, 15)。

「ですから、もし改革が起らなければ真に悔い改めたとは言えません。質物を戻し、奪ったものを返し、罪を告白し、神と人とを愛するようになったならば、その人は確かに死より生に移っているのです。

あやまちあり、罪あるままの姿でキリストに行き、赦罪の恵みを受けるとき、心の中に愛がわき起ります。キリストの課したもうくびきはやさしいのですからすべての重荷は軽くなります。義務は喜びとなり、犠牲は楽しみになります。以前には暗黒に包まれていたように見えた道も、義の太陽に照されて明るくなります。

キリストのうるわしいご品性は、かれに従う者のうちに見られるようになります。神のみ旨をなすことがキリストの喜びでありました。神への愛と栄えをあらわそうとする熱情は、救い主の生涯を動かしていた力です。愛が救い主の行動をすべて美化し、高尚にしたのです。愛は神から来るものです。まだきよめられていない心はその愛をつくり出すことも、生み出すこともできません。それはただ、イエスが支配したもう人の心にのみ見いだすことができます。『わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからである』(ヨハネ第一 4:19)。神の恵みによって新しくされた心のうちでは愛が行為の原則となります。愛は品性を改変し、衝動を支配し、欲情を制し、また敵意をおさえ、愛情を高尚にします。この愛が心のうちに秘められ、あたりに高貴な感化を及ぼすのです。」(キリストへの道 76、77)

- a. クリスマンであると公言する多くの者によって受け入れられている危険な過ちは何ですか（ピリピ人への手紙 3:9; ローマ人への手紙 10:3; ヤコブの手紙 2:17）。

「ここに、神の子ら—とくに神の恵みに頼り始めた者が誤りがちなことが二つあります。これは特別に注意しなければならない事です。まず第一に、前にも述べたように自分の行為をながめ、自分の力を頼みとして神と調和しようとする事です。自分の行為によっておきてを守り、きよくなろうとしている人は、不可能なことをしようとしているのです。人がキリストなしにすることはすべて利己心と罪に汚れています。信仰によるキリストの恵みのみがわたしたちをきよめるのです。

それとは反対ですが、同じように危険なことは、キリストを信じれば人は神のおきてを守らなくてもよいという考えです。つまり、ただ信仰によってキリストの恵みにあずかるようになったのであるから、行いはわたしたちの救いと全然関係がないということです。」（キリストへの道 77、78）

- b. 新しい契約の約束はキリストの恵みがわたしたちを神の律法への従順から免除するものではないことを、どのように明らかにしていますか（ヘブル人への手紙 8:10; 10:16）。

「神のおきては神の性質そのものを表現したものであり、愛の原則を具体化したものですから、天にあっても地にあっても神の政府の基礎です。わたしたちの心が神のみかたちに似て新しくされ、神の愛が心のうちに植えつけられるならば、神のおきては日々の生活に実行されるのではないのでしょうか。愛の原則が心に植えつけられ、わたしたちの心が創造主である神のみかたちに似て新たにされるとき、はじめて『わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう』（ヘブル 10:16）という新しい契約が成就されるのです。こうしておきてが心にしるされるとき、それはその人の生活を左右するのではないのでしょうか。服従すなわち愛よりでた奉仕と忠誠は、弟子であることの真のしるしです。」（同上 78、79）

「神はエデンの聖なる夫婦に要求なきつたとまったく同様に今日も神の要求に対する完全な服従をお求めになる。神の律法はいつの時代も同じである。古い契約の中で示されている大いなる義の標準が、新しい契約において低められることはない。福音の働きは神の聖なる律法の要求を弱めるのではなく、その教えを守ることができるところまで人間を引き上げることである。

魂を救うところのキリストを信じる信仰は多くの者たちによって言われているようなものではない。彼らは『信じなさい、信じなさい。ただキリストを信じる者は救われます。それだけがあなたのしなければならぬことです』と叫ぶ。真の信仰は救いのためにキリストに全く信頼するのであるが、それは神の律法への完全な一致へと導く。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1073）

- a. 永遠の命を得る志願者にはどのようなことが求められているでしょうか(ヨハネの第一の手紙 5:2, 3; コリント人への第一の手紙 7:19)。

「もし自分をキリストにささげ、キリストを自分の救い主として受け入れるならば、その生涯はこれまでいかに罪深きものであっても、かれのゆえに義とみなされるのです。キリストの品性があるあなたの品性の代りとなり、神の前に全然罪を犯したことの無いものとして受け入れられるのです。

こればかりでなく、キリストはわたしたちの心までも変えてくださいます。信仰によって、キリストは心のうちに住みたまいます。こうして、信仰と、たえずキリストに自らの意志を従わせることによって、キリストとの関係を持続するのです。このようにするかがり、キリストはあなたのうちに働いて、み旨に従って志をたて、行うことができるようにしてくださいます。そのときこそ『わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神のみ子を信じる信仰によって、生きているのである』(ガラテヤ 2:20) ということができるのです。ですから、キリストも弟子たちに、『語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中であって語る父の霊である』(マタイ 10:20) と仰せになりました。こうしてキリストがわたしたちのうちに働きになるならば、わたしたちは、キリストと同じ精神を表わし、同じ業―正しい行為、つまり服従をするようになるのです。

ですから、わたしたち自身のうちには、なんら誇るところはなく、自己賞揚のなんの根拠もありません。わたしたちの唯一の希望は、キリストの義がわたしたちに被せられることで、それは、わたしたちのうちに働き、わたしたちを通して働いてくださる聖霊の働きによるほかはないのです。」(キリストへの道 82、83)

- b. 主はすべての人に救いを得るための道を備えてくださっているのに、なぜある人々は道を見失ってしまうのですか(エペソ人への手紙 2:8, 9; 使徒行伝 4:12; ローマ人への手紙 9:30-33)。

「人は服従しなくてもよいというわけではありません。信仰―ただ信仰のみがわたしたちをキリストの恵みにあずからせ、服従することができるようにするのです。…

キリストを信じれば神に服従する義務はないという、いわゆる信仰は、信仰ではなく、臆測です。『あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである』(エペソ 2:8) と言われています。けれども『信仰も、それと同様に、行ないを伴わなければ、それだけでは死んだものである』(ヤコブ 2:17) ともしるされています。また、イエスご自身も、この地上に来られる前に、『わが神よ、わたしはみこころを行なうことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります』(詩篇 40:8) と仰せたまひ、ふたたび天にお帰りになる直前には、『わたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおると同じである』(ヨハネ 15:10) と仰せになりました。聖書には、『わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである…『彼における』と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである』(ヨハネ第一・2:3, 6)。『キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、み足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである』(ペテロ第一 2:21) とあります。」(同上 79 - 81)

- a. 使徒パウロはどのようにして勝利の人生を送ったのでしょうか(コリント人への第一の手紙 15:30, 31)。

「信仰によって、キリストは心のうちに住みたまいます。こうして、信仰と、たえずキリストに自らの意志を従わせることによって、キリストとの関係を持続するのです。このようにするかぎり、キリストはあなたのうちに働いて、み旨に従って志をたて、行うことができるようにしてください。」(キリストへの道 82、83)

「キリストは人性をおとりになって完全な品性を形成された。そしてこの品性をわたしたちに分け与えてくださるのである。『われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである』(イザヤ書 64:6)。わたしたちが自分でなし得ることは、罪で汚れている。しかし神のみ子は『罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんらの罪がない』(ヨハネ第一 3:5)。罪は『律法を犯すこと』であると定義されている(ヨハネ第一 3:4 英語欽定訳)。だがキリストは、律法のあらゆる要求に従順であられた。主はご自分について、『わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります』と言われた(詩篇 40:8)。…キリストはその全き従順によって、あらゆる人間が神の戒めに従うことができるようになされた。人が自分自身の心をキリストにささげるとき、心はキリストの心と結合し、意志はキリストの意志に没入し、精神はキリストの精神と一つになり、思いはキリストのうちにとらわれて、わたしたちはキリストのいのちを生きる。これがキリストの義の衣を着ることである。」(キリストの実物教訓 291、292)

- b. 詩篇記者は彼の人生における喜びをどのように表現しましたか(詩篇 119:97)。

「わたしたちが信仰について語るとき、信仰には区別があることを心にとめておかねばなりません。つまり、ほんとうの信仰とは全く違った一種の信仰があることです。神の存在とその力、み言葉の真理であることは、悪魔もその軍勢も心のうちでは否むことのできない事実です。聖書には『悪霊どもでさえ信じておののいている』(ヤコブ 2:19)とありますが、これは信仰ではありません。神のみ言葉を信ずるといふばかりでなく、神に意志を服従させ、心をささげ愛情を注いでこそ、信仰があるといえるのであって、そうした信仰は、愛によって働き、魂をきよめるのです。この信仰によって、心は神のみかたちに造りかえられます。」(キリストへの道 83、84)

個人的な復習問題

金曜日 8月14日

1. 改心の証拠を述べなさい。
2. 古い人と新しい人の対比とは何でしょうか。
3. わたしたちの霊的生活において避けるべき二つの危険について述べなさい。
4. 恵みの中で生きる時、従順はどのような位置づけにあるのでしょうか。
5. どのような思考、願望、動機がキリストが心に宿られる時に大切にされるでしょうか。

キリストへと成長する

暗唱聖句：「シオンの中の悲しむ者に喜びを与え、灰にかえて冠を与え、悲しみにかえて喜びの油を与え、憂いの心にかえて、さんびの衣を与えさせるためである。こうして、彼らは義のかしの木となえられ、主がその栄光をあらわすために植えられた者となえられる。」（イザヤ書 61：3）

推奨文献： キリストへの道 88 - 103 (成長)

「木の枝が成長して実を結ぶのには、その幹に連なっていなければならないと同様に、きよい生涯を送るには、キリストに頼らねばなりません。」（キリストへの道 91）

1. 成長のかぎ

日曜日 8 月 16 日

a. 聖書はクリスチャンの発達についてどのように描写していますか（イザヤ書 61:3; ペテロの第一の手紙 2:2; エペソ人への手紙 4:14, 15; マルコによる福音書 4:26, 27）。

「人間がどんなに知恵と技巧を注いでも、自然界の一番小さなものにさえ、その中に生命をつくり出すことはできません。植物にせよ動物にせよ、生きることができるというのはただ神の与えたもういのちによるのです。同じように、神から出るいのちによってのみ、霊的生命が人の心のうちに生れるのです。」（キリストへの道 88、89）

b. 成長と発達において、キリストへのわたしたちの依存を示すものは何ですか（ホセア書 14:5-7; コリント人への第一の手紙 3:6, 7）。

「神は、み子という比類なき賜物を与えて、ちょうど空気が地球の回りを取りまいているように、恵みの雰囲気ですべてをつつみたまいました。このいのちを与える空気を吸いたいと望む者は、だれでもいきることができ、キリストにある全き人となることができるのです。」

「ちょうど、花が輝かしい光線の助けをかり、美しく咲こうとして太陽に向かうように、わたしたちも義の太陽を仰いで天の光に照され、わたしたちの品性がキリストのかたちに似るまでに成長しなければなりません。」（同上 90、91）

- a. 主は地上でのお働きを終えられる前に、弟子たちにどのような重要な点を強調なさいましたか(ヨハネによる福音書 15:4-7)。

「さて、なにか自分だけでしなければならないことがあると考えている人がたくさんあります。彼らは、キリストに頼って罪のゆるしを得ていながら、正しい生活を自分の力で送ろうとします。しかしそうした努力はみな失敗に終わります。イエスは『わたしから離れては、あなたは一つできない』と仰せになります。恵みに成長することも、わたしたちの喜びも人のために役だつこともみな、キリストと一つになるか否かにかかっています。恵みに成長するのは、毎日、毎時、かれと交わり、かれにあることによります。キリストは、わたしたちの信仰の導師であると同時に、これを全うしたもう方です。キリストは、始めであり終りであり、つねにいましたもうのです。ですからわたしたちの旅路の始めと終りばかりでなくその道すがら一步一步、キリストにいていただかねばなりません。」(キリストへの道 92)

「もしあなたがたがキリストの学校で心の柔和とへりくだりを学ぶことをいとわないなら、このお方は確かにあなたに休みと平安を与えられるであろう。自分の意志とやりかたを放棄するというのは大変困難な闘いである。けれどもこの教訓を学べば、休みと平安を見出すであろう。誇りと利己心、野心が克服されなくてはならない。あなたの意志はキリストの意志に飲み込まれなければならない。生活全体は一つの絶え間ない愛の犠牲となり、すべての行為は愛の現れ、すべての言葉は愛の発言となるであろう。つるの命は茎と房を通して循環し、低いひげ根において、てっぺんの葉へと達する。そのようにキリストの恵みと愛も魂の内に燃え、全身各部にその美德を送り、心身のすべてに広く働くであろう。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 卷 1091, 1092)

- b. キリストの内に成長することの秘訣は何ですか(コロサイ人への手紙 2:6; ヘブル人への手紙 10:38)。

「あなたは、自分を神にささげ、全く神のものとなり、神に仕え、神に従い、キリストをあなたの救い主として受け入れたのです。あなたは自分ではおのれの罪をあがなうことも、心を変えることもできませんでした。しかし神におのれをささげ、神がこれをすべてキリストのゆえになしたもうたと信じたのです。信仰によってキリストのものとなったのですから、また、信仰によってキリストのうちに成長するのです。これは、こちらからも与え、また、神からも受けることです。自分の心も意志も奉仕もすべてを神にささげ、神のご要求にことごとく従わねばなりません。そして、服従する力をうけるには、あらゆる祝福に満ちあふれたもうキリストを心に宿し、キリストをあなたの力、義、また永遠の助けとしてうけなければなりません。」(キリストへの道 93)

- a. 神の子らが一日を始めるにあたって最初に果たすべき義務は何でしょうか（詩篇 5:3）。

「毎朝、神におのれをささげ、これを最初の務として、次のように祈りましょう。『主よ、しもべを全くあなたのものとしてお受け入れください。私のすべての計画をあなたのみ前におきます。どうか、しもべをきょうもご用のためにお用いください。どうか、私と共にいましたもうて、すべてのことをあなたにあつてなさせてください』と。これは毎日のことです。毎朝、その日一日、神に献身して、すべての計画をかれにお任せし、摂理のままに実行するなり、中止するなりするのです。こうして、日ごとに生涯を神のみ手にゆだねるとき、次第にあなたの生涯がキリストの生涯に似てくるのです。」（キリストへの道 93、94）

- b. キリストは日々どのような招待を提供しておられますか（マタイによる福音書 11:28、29）。

「キリストにある生涯は、平和な生涯です。感情の興奮はないかも知れませんが、いつも変らない平和な信頼をもった生活です。自分に望みがあるのではなく、キリストに望みがあるのです。自分の弱さはキリストの力に、無知はキリストの知恵に、もろさはキリストの持久力と一つになります。するとわたしたちは自分をながめて自分のことばかりを考えないで、キリストをながめるようになるのです。キリストの愛を瞑想し、その性格の美しさ、完全さを心にとめて考えましょう。キリストの自己犠牲、キリストのへりくだり、キリストの純潔と聖潔、またその比類なき愛を魂の瞑想課題といたしましょう。キリストを愛し、キリストにならい全くキリストに頼ってこそ、わたしたちはキリストのみかたちに変えられるのです。」（同上 94、95）

- c. 心の平安を経験するためのかぎは何ですか（イザヤ書 26:3、4; 30:15）。

「キリストをみことば通りに信じ、自分の魂をキリストの守りにゆだね、その生活をキリストの命令に従わせる者には、平安とおだやかさがある。イエスがそのご臨在によって彼らをよるこぼせてくださるとき、この世のどんなものも彼らを悲しませることができない。ただ黙々として従うことに完全な休みがある。…われわれの生活は混乱しているようにみえるかも知れない。しかし賢明な巨匠であられる神に自分自身をまかせるとき、神はご自身の栄えとなる生活と品性の型をつくり出される。

われわれがイエスを通して休みにはいるとき、天国はこの地上に始まる。わたしのもとにきて、わたしに学びなさいとのイエスの招きに応じてみもとに行くとき、われわれの永遠のいのちが始まる。」（各時代の希望中巻 53）

- a. 自分自身に目を向けるのではなく、イエスに心を向けることでどのような結果が得られるでしょうか（コリント人への第二の手紙 3:18）。

「信仰の目をもってイエスをたえずながめることによって、われわれは強められる。神は、飢えかわいているご自分の民に最もとうとい啓示をお与えになる。彼らはキリストが自分自身の救い主であることを発見する。キリストのみことばを食べるときに、彼らは、それが霊でありいのちであることを知る。みことばは、生れながらの世俗的な性質を滅ぼし、イエス・キリストのうちにある新しいいのちを与える。聖霊は、助け主として魂にくだる。人を生れ変らせる神の恵みの力によって、神のみかたちが、弟子のうちに再現され、彼は新しい人間となる。愛が憎しみに入れ代り、心は神のみかたちにかたどられる。」（各時代の希望中巻 141）

「自己のことを考えていると、心は、力といのちの源であるキリストから離れていきます。そして、悪魔は、人の心を救い主からそらそうと絶えず努力して、キリストとの一致と交わりを妨げようとするのです。世の快樂、生活上の心配事、悩み、悲しみ、他人の欠点、または、自分の欠点や不完全さ、こうしたものの全部、またはそのどれかにわたしたちの心をひこうと、悪魔は必死になっています。悪魔の策略に迷わされてはなりません。ほんとうに良心的で、神のために生きたいと望んでいる人々にさえ、悪魔は、自己の欠点や弱さのことばかり考えさせ、こうしてキリストより離して、ついには勝利を得ようと願っています。わたしたちは、自己を中心としてはたして自分は救われるかどうかと心配したり恐れしたりしてはなりません。これはみな、わたしたちの心を力の源である救い主から離してしまいます。魂を全く神にゆだねて、神を信頼し、イエスのことを語り、考え、おのれをキリストのうちに消失させてしまわねばなりません。」（キリストへの道 96）

- b. 弟子たちがキリストと共に日々の伝道活動を行った後に彼らに起こった変化からわたしたちは何を学ぶことができますか（使徒行伝 4:13）。

「絶えず〔イエス〕見ることによって、『わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである』（コリント人への手紙第二 3:18）」。

初代の弟子たちが、愛する救い主に似るようになったのも、こうした方法によったのです。弟子たちは、イエスのみ言葉を聞いて、自分たちはイエスを必要としていたと感じたので、まず求め、見だし、ついにイエスに従ったのでありました。彼らは、家の中でも、食卓でも、私室でも、野外でも、いつも主と共にいました。ちょうど先生と生徒がいっしょにいるように毎日そのくちびるよりきよい真理を学びました。また、彼らは、僕が主人につかえて義務を学ぶように、主を仰いだのでした。これらの弟子たちも、『わたしたちと同じ人間』（ヤコブ 5:17）であって、彼らも罪に対して、わたしたちと同じようにたたかわねばなりませんでした。彼らも、きよい生活を送るには、同じ恵みを必要としたのです。」（同上 97, 98）

- a. 敵意に満ちた世において困難に直面する弟子たちにイエスはどのような素晴らしい約束を残されましたか(マタイによる福音書 28:20)。

「キリストの昇天したもうたときも、かれはなお共にいましたもうという感じを弟子たちはもちました。それは愛と光に満ちた個人的な存在でありました。弟子たちと共に歩み、語り、祈り、彼らの心に希望と慰めを与えたもうた救い主イエスは、平和の言葉を語りながら、彼らを離れて天にあげられたまいました。天使の群がイエスをうけた後、弟子たちに聞えたのは『見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである』(マタイ 28:20) との救い主のみ言葉でありました。」(キリストへの道 99、100)

- b. イエスは、必要な時に弟子たちが何をすべきかわかるように、どんな重要な指示を残されましたか(ヨハネによる福音書 16:23, 24; 14:16-18)。

「主の昇天後彼らは集まって、イエスのみ名によって天の父に熱心にねぎごとをささげていました。…『キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたち ためにとりなして下さるのである』(ローマ 8:34) という確かなあかしをもって、彼らは信仰の手を高く高く伸ばしたのです。こうしてキリストが、『あなたがたのうちにいる』(ヨハネ 14:17) と仰せになった慰むる者なる聖霊が、ペンテコステの時に彼らに与えられたのです。キリストは『わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう』(ヨハネ 16:7) と仰せになりましたが、それ以来、キリストは聖霊を通してつねにその子らの心のうちに住みたまうのです。こうして彼らは、この地上に主がいましたもうときよりいっそう近く主と一つになることができたのです。内住したもうキリストの光、愛、そして力が弟子たちから輝き出たので、人々は驚き『不思議に思った。そして彼らがイエスと共にいた者であること』(使徒行伝 4:13)を知るようになったのです。」(同上 100 - 102)

個人的な復習問題

金曜日 8月21日

1. わたしたちが植物のように成長しているのなら、なぜ天からの助けが必要なのでしょうか。
2. 植物が成長するために雨が必要なように、わたしたちが霊的に成長するために何が必要なのでしょうか。
3. なぜ毎日の献身はわたしたち一人ひとりにとって重要なのでしょうか。
4. なぜ神はわたしたちが自己を心から追い出し、いつもイエスに心に向けていることを望まれるのでしょうか。
5. すべての信者の生活において日々の現実となるべき約束は何でしょうか。

働きと人生

暗唱聖句：「彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」（ヨハネ 1：12）

推奨文献： キリストへの道 104－114（人生と活動）

「天に満ちあふれているのは、キリストの自己犠牲的愛の精神です。これこそ、天国の幸福の本質ともいうべきものであつ、キリストに従う者がもたねばならぬ精神であり、なさねばならぬ働きです。」（キリストへの道 104－105）

1. 命と光

日曜日 8月23日

a. 生来の心は何を無視しますか、またその結果は何でしょうか（ヨハネによる福音書 1:4, 5）。

「神は、宇宙のいのちであり、光であり、喜びの源です。ちょうど太陽の光のように、また、泉からわき出る水の流れのように、祝福が神からすべての造られたものに流れ出ます。そして、神のいのちが人の心のうちに宿っていればどこであっても、愛となり、祝福となって他に流れていきます。」（キリストへの道 104）

b. キリストの愛が心の中で大切にされている時、その生活の中に何が見られるでしょうか（コリント人への第二の手紙 2:14, 15; 5:14）。

「キリストの愛が心のうちに宿るとき、それはちょうど、かぐわしいかおりのようにかくすことはできません。そのきよい感化は、この人に接するすべての人に感じられます。心のうちにキリストの精神が宿っていれば、それは砂漠の泉のように流れ出てすべてをうるおし、今にも死にそうな人にいのちの水を飲ませます。」（同上 105）

「われわれは自分自身の利害問題に利己的に没頭しているのではなく、われわれの祝福と特権とを他人にわけ与えようと願っているのだということを、世の人々に見せよう。われわれの宗教はわれわれを非情にしたり苛酷（かこく）にしたりしないということを世の人々にわからせよう。キリストをみいだしたと言っている者はみな、キリストが人々を益するために働かれたように、奉仕しよう。」（各時代の希望上巻 178）

- a. わたしたちがイエスをわたしたちの救い主として受け入れる時、どのような必要が満たされますか（ヨハネによる福音書 1:12, 13; コリント人への第一の手紙 1:4, 5; ローマ人への手紙 5:1, 2）。

「そのように、キリストの恵みにあずかった人々は、喜んでどんな犠牲をも払いキリストがいのちを与えたもうた他の人々も天の賜物を受けることができるようにいたします。彼らはできるかぎりをして、この世を少しでも住みよい世の中とします。真に悔い改めた者の心には、必ずこうした精神が見られるようになるのです。人は、ひとたびキリストに来るやいなや、イエスはいかに尊い友であるかを他の人に知らせたいと望みます。人を救いきよめる真理は、どうしても心のうちに秘めておくことはできません。わたしたちがキリストの義の衣をまとい、内住する聖霊の喜びで満たされているならば、黙っていることはできないはずで、もし、主の恵みを味わい悟ることができたならば、なにか言いたくなるものです。ピリポが救い主を見いだしたときのように、他の人々を主のみ前に誘わずにはいられなくなるでしょう。」（キリストへの道 106、107）

- b. わたしたちが問題や困難に直面する時、使徒パウロはどのように勧告を与えていますか（ヘブル人への手紙 4:16）。

「イエスをご自分の子らの必要を知っておられ、彼らの祈りを聞くのを愛される。子らに世と、思いを神からそらせるすべての事を閉め出させ、神だけといることに気づかせなさい。神の御目は心の奥底を見通し、魂の願いを読み取られること、また神と語ることができることに気づかせなさい。」（神の息子むすめたち 121）

- c. わたしたちが神の子になったなら、他の人々に対してどんな義務を負うのでしょうか？（ローマ人への手紙 1:14, 15）。

「どういう意味でパウロはユダヤ人にもギリシャ人にも果たすべき責任を負ったのだろうか。彼にはキリストのすべての弟子に与えられているのと同じく、『あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終わりまでいつもあなたがたと共にいるのである』との任命が与えられていた。キリストを受け入れることでパウロはこの任命を受け入れていた。彼はすべての階級の人々のために—ユダヤ人とギリシャ人、学問のある者と無学な者、高い地位についている人々と、人生の最も低いところを歩いている人々のために—働く責任が自分にあることを認識した。」（SDA パイプ・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 6巻 1067）

- a. もし聖霊がわたしたちの心におられるなら、わたしたちの最初の行動の一つは何になるでしょうか(ヨハネによる福音書 1:41, 42)。

「そして、彼らにキリストの美と、見えざる世界の現実性について話したいと思うのでありましょう。またイエスがたどりたもうた道を踏みたいと熱心に願い、周囲の人々に『世の罪を除く神の小羊』を仰がせたいと切望するようになるのでありましょう。(ヨハネ 1:29)

他人を祝福しようとする努力は、かえって自分自身の祝福となってもどってきます。神がわたしたちをあがない、計画の一部に携わらせてくださるのはこのためです。神は、人に神の性質をもつ特権をお与えになりましたが、これは他の人に祝福をわかたためです。これは神が人類にお与えになる最高の栄誉であり、最大の喜びです。こうして愛の働きの共労者となる者は、創造主の最も近くにはべるのです。

神は、福音宣伝の働き、その他すべての愛の奉仕の働きを天使にお任せになることもできました。また別の方法によって目的を達成なさることもできました。しかし、神は限りない愛をもって、わたしたちを神、キリスト、天使と共に働く者として選び、おのれを忘れて働くことから来る祝福、喜び、霊的向上にわたしたちをあずからせてくださったのです。

わたしたちは、キリストと苦しみを共にすることによって、キリストと一つになります。他人の幸福のためにする自己犠牲の行為はことごとく、与えるものの心によいよ情深い心を強め、『主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさよって富む者になるためである』(コリント第二・8:9) としるされている世のあがない主にいっそう近く結びつけます。こうして、わたしたちを創造したもうた神の目的を果すときはじめて、生きていることがわたしたちの祝福となるのです。」(キリストへの道 107、108)

- b. 親戚や近隣の人々との関係において、キリストのどの模範に従うべきでしょうか(ガラテヤ人への手紙 6:9, 10; ヨハネによる福音書 9:4)。

「もし、キリストがその弟子たちに望みたもうたように働き、主に魂を導こうとするならば、わたしたちは神についていっそう深い経験と更に広い知識の必要を感じ、飢えかわくごとくに義を慕うようになります。こうして神に求めるならば、信仰は強められ、魂は救いの泉から思う存分飲むことができます。反対や試練に会えば、かえって聖書に親しみ祈るようになり、ますます恵みとキリストの知識に成長し、豊かな経験に導かれるのです。」(同上 108、109)

- a. 今日教会員であるわたしたちにとって最も大きな危険の一つを挙げなさい（マラキ書 3:8-10）。

「現代において〔安息日遵守者のアドベンチストたち〕の最大の危険は彼らの財産を蓄積することにある。ある人々は絶えず自分たちの心配と労働を増やし続けている。彼らは働き過ぎている。その結果、神とこのお方の御事業とその必要とは彼らによってほとんど忘れ去られている。彼らは霊的に死んでいる。彼らには神への犠牲、すなわち供え物を捧げることが要求されている。犠牲は増やされているのではなく、かえって減少し使い果たされている。…わたしたちの民の間にある財産の多くはそれにしがみついている者たちにとってただ害をもたらすものとなっている。」（教会への証 1 巻 492）

- b. クリスマスのどの美徳が、信者が主イエス・キリストの恵みと知識を深めるのに助けとなるのでしょうか（ペテロの第一の手紙 4:8-10; ヘブル人への手紙 13:2）。

「アブラハムとロトに与えられた特権は、わたしたちにも与えられている。神の子らに対してのもてなしを示すことによって、わたしたちもまた神の天使たちを自分たちの住まいに迎え入れることができる。わたしたちの時代においてさえ、天使たちは人間の姿をとって人々の家に入り、彼らからもてなしを受ける。そして神の御顔の光の中に生きるクリスマスたちは常に目に見えない天使たちに伴われており、これらの聖なる存在はわたしたちの家庭に祝福を残していくのである。」（同上 6 巻 342）

- c. 今日の信者たちによってどのような必要が満たされるべきでしょうか（コリント人への第二の手紙 10:16）。

「わたしたちの教会のメンバーは彼らがまだほとんど始めてさえいない働きを成し遂げることができる。だれもただ世俗的な利益のためだけに新しい場所へ移るべきではない。しかし生計を得る道が開かれているところでは、真理にしっかりと根ざした家族が一つの場所に一家族、または二家族ずつ入り、宣教師として働かせなさい。彼らは、人々の魂に対する愛を感じ、彼らのために働く重荷を負い、そして、どのようにして彼らを真理へ導き入れるかを研究することを、自らの務めとすべきである。彼らはわたしたちの出版物を配布し、自分たちの家で集会を開き、隣人たちと親しくなり、そして彼らをこれらの集会に来るよう招くことができる。このようにして、彼らは良い行いによって自分たちの光を輝かせることができる。」（教会への証 8 巻 245）

「奉仕の精神が教会全体にゆきわたって、教会員が残らず各々の才能に応じて主のために働くのを、神は長いあいだ待っておられる。福音事業の任命を完成するために、神の教会の会員が、光の必要な自国や外国の伝道地で、それぞれ定められた働きをするならば、まもなく全世界に警告がゆきわたり、主イエスは力と大いなる栄光をもってこの世にもどってこられるのである。」（患難から栄光へ上巻 116）

- a. 福音を託されたすべての者たち一特に働き人たち一には何が期待されていますか (コリント人への第一の手紙 4:1, 2; ヨハネの黙示録 2:10)。

「シオンの城壁の見張り人たちの特権は神と非常に近く生き、また神の御霊の感化に非常に鋭敏であることによって、神が彼らを通して働き、罪人たちに彼らの危険を告げ、そして彼らを安全な場所へ指し示すことができようになるためである。神に選ばれ、献身の血によって印を押された彼らは、差し迫った滅びから男女を救い出すべき者たちである。彼らは忠実に、自分たちの同胞に罪の確実な結果を警告し、また忠実に教会の利益を守るべきである。」(福音宣伝者 15)

- b. ダニエルは今日の青年たちのためにどのような模範を示しましたか (ダニエル書 1:8, 15)。

「主は、わたしたちにもダニエルの経験から一つの教訓を学んでほしいと望んでおられる。この忠実なヘブル人のように、恵みによって勝利者となるため、また自分たちの働きにおいて力と有用さを得るために神により頼むならば、力ある人々となり得る者が多くいる。ダニエルは、自分の年長者たちに対しても、若者たちに対しても最も完全な礼儀正しさを示した。彼は神の証人として立ち、自分の言葉を天が聞いても、自分の行いを天が見ても恥じることはないような歩みをしようと努めた。ダニエルが王の食卓のぜいたくな食物にあずかるよう求められたとき、彼は感情的になることもなく、自分を喜ばせるように飲み食いすると決意を表明することもしなかった。反抗の言葉を一つも口にせず、彼はその問題を神のもとへ持って行った。彼と彼の仲間たちは主に知恵を求め、真剣な祈りから立ち上がったとき、彼らの決断は定まっていた。真の勇気とキリスト者の礼儀正しさをもって、ダニエルは彼らの監督者に事情を説明し、簡素な食事を与えてもらえるようお願いした。これらの青年たちは、自分たちの宗教的原則が危機にさらされていると感じていたのであり、彼らは、自分たちが愛し、また仕えていた神に依り頼んだ。」(牧師への証 263)

個人的な復習問題

1. 世のどのような状態が、神がその中に光を注ぎ込むことを必要とさせたのでしょうか。
2. 信者たちの生涯の中にどのような素晴らしい変化が見られるでしょうか。
3. 祝福を受けた時、どのようにそれに応えるべきでしょうか。
4. わたしたち一人一人が他の人々に奉仕できるいくつかの方法を述べなさい。
5. ダニエルの忠実さはどのようにわたしを鼓舞しますか。

第一安息日献金 フィリピンにおける聖書伝道訓練学校

全世界に出て行って弟子を作るという大宣教命令を思い起こすとき、私たちは行動を起こさなければなりません。聖書伝道訓練学校は、主のぶどう園で働く人々を準備し、備えさせることに専念する機関です。1984 年 2 月の創立以来、この学校は信仰の灯台として、あらゆる国に福音を広めたいと願う人々の心と精神を育ててきました。この機関が提供する 2 年間の伝道訓練プログラムを修了した多くの学生が海外で宣教師となり、また数名はフィリピンの人口密集地で救いのメッセージを広める指導者や牧師となっています。

フィリピン、ケソン州ティアオンのカバタンに位置する聖書伝道訓練学校は、フィリピン国内および太平洋地域全体で宣教師を目指す人々に、確固たる聖書的基盤を提供するためにたゆまぬ努力を続けてきました。この施設は、学生たちが滞在し、英語を学び、国内外で切実に必要とされている宣教師、伝道者、医療従事者、管理者としての訓練を受ける場を提供しています。また、研修セミナー、青年大会、会議の開催場所としても利用されています。

フィリピン全土で改革運動が拡大するにつれ、この施設が今後も神の御業に奉仕し続けるためには、拡張と改善が喫緊の課題となっています。こうしたニーズを踏まえ、この施設で総会を開催する計画も進められています。福音伝道と霊的復興のビジョンが中心となるこの信徒たちの集まりを主催できることは、何という祝福でしょう！

皆さんの今日集める惜しみない第一安息日献金は、大いに必要とされているこの施設の増築に役に立ちます。捧げるときにコリント人への手紙第二 9:7 を覚えていましょう。「各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。」

皆様からの捧げ物が、この学校を力づけ、その使命を強め、永遠の福音を宣べ伝える働き人を育成する力となりますように。私たちの貢献が神の国のために永遠の実を結ぶことを信じ、信仰と喜びをもって献金しましょう。

ありがとうございます。主がみなさんが捧げるとき、豊かに祝福してくださいますように！

フィリピンにいる皆さんの兄弟より

神を知る知識

暗唱聖句：「すべて賢い者はこれらの事に心をよせ、主のいつくしみをさとるようにせよ。」詩篇 107:43

推奨文献：キリストへの道 115 - 125 (神についての知識)

「すべての真の知識と真の発達の源は、神を知ることの中にある。」(教育 3)

1. 神がご自身を現わされる

日曜日 8 月 30 日

a. 主はこの世のどのようなものを通して人々をご自分のもとへ引き寄せようとしておられますか (詩篇 19:1-6; 箴言 2:1-5)。

「神は多くの方法を用いてご自身をわたしたちに知らせ、わたしたちを神との交わりに導いて下さいます。自然は絶えずわたしたちの感覚に話しかけていますから、心をひらいているならば、神のみ手のわざにあらわされた神の愛と栄光に強く打たれるのです。また、耳を傾けて聞くならば、自然界を通して神が語りたもうているのを知ることができます。緑の野、大きな樹木、花やつばみ、過ぎ行く雲、雨のしずく、ささやく小川、天の栄光などはみなわたしたちの心にささやいて、これらいつさいを創造したもうた神を知るようにと招いています。」(キリストへの道 115)

b. イエスはご自分の聴衆の心に真理を定着させるためにどのような方法をお用いになりましたか (マタイによる福音書 13:3, 34)。

「わたしたちの救い主は、自然界の事物に関係をつけて尊い教訓をお語りになりました。木や鳥、谷間の花、丘や湖、美しい天、それから日常のいろいろのできごとなどをみな、真理のみ言葉と結びつけて、人々がどんなに忙しい仕事に追われているときでも、その教訓を思い出すことができるようになさいました。

神は、わたしたちがみ手のわざを尊重し、また、わたしたちの地上の住み家を単純に、しかも落ち着いた美しさをもって飾ってくださったことを感謝することを望みます。」(同上 115, 116)

- a. 自然界から、例えば花、鳥、そして星などからどのような教訓を学ぶことができますか（ローマ人への手紙 1:20; 使徒行伝 14:17）。

「科学の研究においても…創造主の知識を得なければならない。すべての真の科学は、物質界における神のみ手の跡の解釈に過ぎない。科学は、その研究の中から、創造主の知恵と能力の新しい証拠を提出するに過ぎない。自然の書物と書かれた言葉とは、正しく理解するならば二つとも神がお用いになる法則が、知恵と慈愛に満ちたものであることをわれわれに教えて、われわれを神に近づけるのである。」（人類のあけぼの下巻 260）

「また、わたしたちが耳を傾けさえすれば、神の創造のみわざは、従順と信頼の尊い教訓を教えています。広漠たる天空にあっても、昔から定められた軌道を進む星より、いと小さき原子に至るまで、自然界のものはみな創造者のみ旨に従っています。神は、創造されたすべてのものを守り支えてくださっています。」（キリストへの道 116）

- b. 汚されていない自然の美と平和を熟考する時、約束された新しい地について何を覚えているべきでしょうか（コリント人への第一の手紙 2:9; ヨハネの黙示録 21:1）。

「救われた者の家庭を考えてみましょう。それは、どんなにすばらしい想像もとうてい描き出すことができないほどのりつぱなものであることをおぼえましょう。神は自然界を美しく飾りたまいますが、それでも、わたしたちは、神の栄光のほのかな光を見ているにすぎないのです。」（同上 117）

「神の教会は、悪との戦いにおける最も暗黒な時代に、主の永遠の計画に関する啓示が与えられた。神の民は現在の試練のかなたに将来の勝利を見ることが許された。その時になれば、戦いは終わり、贖われた者は約束の国を領有するのである。将来の栄光に関するこれらの幻、すなわち神の手が描いた光景は、各時代の争闘が急速に終わりを告げ、約束の祝福があふるるばかりに与えられようとしている今日、神の教会にとって貴重なものでなければならない。」（国と指導者下巻 322）

「聖書の中では、救われた者の嗣業が『ふるさと』と呼ばれている（ヘブル 11:14 - 16 参照）。そこでは天の大牧者イエスが、ご自分の群れを生ける水の源に連れて行ってくださる。いのちの木は月ごとにその実を結び、その葉は万民のために用いられる。水晶のように透きとおった川が永遠に流れ、そのそばにはゆれ動く木々が、主に贖われた者たちのために備えられた道の上に影を投じている。広々とひろがった平野の果ては、美しい丘となって盛りあがり、神の山々が高くそびえ立っている。この平和な平原に、また生ける流れのほとりに、久しい年月の間旅人であり寄留者であった神の民が、そのすまいを見いだすのである。」（各時代の争闘下巻 463）

- a. 失望や誘惑の時にわたしたちを勇気づけるために預言者たちからどのような貴重な教訓を学ぶことができますか（ヤコブの手紙 5:17; ローマ人への手紙 8:28; ヨハネの第一の手紙 5:14）。

「神は、み言葉、聖書をもってわたしたちに語っておいでになります。み言葉は、神のご品性、神の人類を扱いたもう方法、また贖罪の大業をもつとはっきりした言葉で啓示しています。…そして〔父祖たちや預言者たち〕、また、昔の聖者たちの歴史が繰広げられています。彼らは『わたしたちと同じ人間』（ヤコブ 5:17）であって、わたしたちと同じように失望と戦い、また、わたしたち同じように誘惑に負けましたけれども、再び勇気を出して、神の恵みによって勝を得たことを知るとき、わたしたちも義を追い求めて戦っていかねばならないと励まされるのです。」（キリストへの道 119）

- b. もし神が自然の事物のために備えて下さっているなら、ましてその子らのためにどれほどもっとそうなさることでしょうか（詩篇 107:43; 145:15, 16）。

「自然と啓示は、神の愛をあかししています。天の父なる神は、生命と知恵と喜びの源です。自然の妙（たえ）に美しいものを見てごらんください。また自然が、人間ばかりでなく、あらゆる生物の必要と幸福を驚くばかり満たしていることを考えてごらんください。輝かしい日の光、地をうるおす雨、また山、丘、海、平原それらはみな神の愛を物語っています。」（同上 1）

- c. 神の保護のみ約束はわたしたちを何に目を向けるよう導くのでしょうか（マタイによる福音書 6:30-34）。

「わたしたちが、自分の関係していることを自分の手で処理し、自分の知恵だけで成功させようとするのは、神から与えられていない重荷を引き受けて、神の助けなしにそれを担おうとしているのである。そうすることは神の責任を自分でとり、事実上自分自身を神の地位においているのである。危険や損害は確かにふりかかってくるのであるから、それを予想して懸念するののもっともなことである。だが神はわたしたちを愛して、恵みを施そうとしておられることをほんとうに信じる時、わたしたちは将来のことを心配しなくなる。わたしたちは、ちょうど子供が愛情深い親を信頼するように、神を信頼する。そのとき、わたしたちの意志は神の意志に没入して、悩み苦しきは消えてゆくのである。」（祝福の山 124）

- a. 人類救済のための神の御計画の最も明確な啓示を、キリストはどこに据えられましたか(ヨハネによる福音書 5:39; イザヤ書 34:16)。

「神は、み言葉、聖書をもってわたしたちに語っておいでになります。み言葉は、神のご品性、神の人類を扱いたもう方法、また贖罪の大業をもつとはっきりした言葉で啓示しています。」(キリストへの道 119)

- b. 神の力と権威において成長したいと望むすべての者は日々何をなすべきでしょうか(ヨハネによる福音書 6:53, 63; コロサイ人への手紙 3:1, 2)。

「さて、贖罪問題は、天使たちも研究したいと望んでいるもので、それは永遠にわたってあがなわれた者の科学であり歌です。ですから贖罪の問題は今でも熱心に研究する価値があるのではないのでしょうか。イエスの無限のあわれみと愛、またわたしたちのために払われた犠牲はわたしたちがまじめに考えねばならない問題です。わたしたちは愛するあがない主、また仲保者のご品性をよく考え、民を罪から救うためにこの世に来られたその使命を深く瞑想しなければなりません。」(同上 121)

- c. わたしたちは神のみ言葉をどのように心に受け入れることができますか(マタイによる福音書 4:4; テモテへの第二の手紙 2:15)。

「聖書の教えを理解しようとする心がけさえあれば、その一節を読むだけで必ず何か有益な思想を得ることができる。しかし時々思い出したように断片的に聖書を研究したのでは、その最もうまい教えを得ることは不可能である。聖書を急いで不注意に読む人は、そこに提示されている大きな真理の体系を認めることができない。真理の宝の大部分は、表面下に深くうずもれていて、熱心な探求とたえまない努力によってのみ、これを手に入れることができる。われわれは大きな全体を構成しているところの数々の真理を、『ここにも少し、そこにも少し』さがし出して集めなければならない(イザヤ 28:10)。

このようにさぐり出され、集められた真理は、互いに調和していることがわかる。四福音書はおのおの互いに補足し合い、一つの預言は他の預言の説明であり、一つの真理は他の真理の発展である。ユダヤの制度の型は、福音によって明らかにされている。神のみ言葉の中にあるすべての原則はそれぞれに立場を持ち、すべての事実はそれぞれの意義をもっている。こうして全体の構成は、計画においても実行においても、その創始者である神について証言している。このような構成は、ただ限りない神の知恵だけが考え出すことも作り出すこともできるのである。」(教育 132、133)

- a. エレミヤの混乱した時代に何が彼に慰めと助けをもたらしましたか（エレミヤ書 15:16）。

「聖書の研究ほど知力を強めるに適切なものではありません。どんな書籍でも、聖書の広範、高尚な真理ほど、人の思想を高め才能を強めるものではありません。もし、神のみ言葉を正しく研究するならば、人は広い知力と、高尚な品性、確固たる目的をもつことができますが、今日そうした人は非常にまれです。」（キリストへの道 123）

「聖書を注意深く、祈りつつ学ぶ者は神に向かうことによってより高い知性の段階に達したかのように明確な理解と確かな判断力を得るであろう。」（思い、品性、個性 1 巻 95）

- b. 聖書はどのように学ばれるべきですか、そして、そのような聖書研究の前に何がなされなければならないのでしょうか（詩篇 119:9, 11, 16）。

「神の真理は、金のように、いつも表面にそのまま横たわっているわけではなく、真剣な思索と研究によってのみ得られるものである。」（福音宣伝者 76）

「鉱夫が地下深く掘り下げて、かくれている尊い鉱脈を発見するように、しんぼう強く、神のみ言葉をかくれている宝のごとく捜すならば、不注意な探求者の目にはとまらぬ価値ある真理を発見することができます。そして、心の中で熟考された靈感によるみ言葉は、いのちの泉からわきでる流れのようになるのです。

聖書は、決して祈りをささげずに研究してはなりません。ページを開くときは、聖霊の導きを祈らねばなりません。この導きは必ず与えられます。…心を卑くして神の導きを求める者には、天使が光の世界から送られるのです。」（キリストへの道 124、125）

個人的な復習問題

金曜日 9月4日

1. わたしたちの救い主は人々の心に届くために、どのような教え方をお用いになりましたか。
2. 神は、このお方のみ言葉に接する機会のない人々を含むすべての人にご自身を現されるために、どのような備えをしておられるでしょうか。
3. 神の御摂理を通して何を学ぶことができますか。
4. 神の啓示である聖書に対して、わたしたちが持つべき態度を述べなさい。
5. 聖書に関してのエレミヤのどのような経験が、繰り返されるべきでしょうか。

祈りの特権

暗唱聖句：「あなたは祈る時、自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう。」(マタイ 6:6)

推奨文献： キリストへの道 126 - 144 (祈りの特権)

「祈りとは、友だちに語るように、心を神に打ち明けることです。これはなにもわたしたちがどんなものであるかを神に知らせる必要があるからではなく、わたしたちが神を受け入れるのに必要だからです。祈りは、神をわたしたちにまで呼びおろすのではなく、わたしたちを神の許へひき上げるのです。」(キリストへの道 126)

1. 偉大な嘆願者

日曜日 9月6日

a. 人の子として、イエスは何を必要とされましたか (ルカによる福音書 5:16; マルコによる福音書 6:46)。

「御子が御父の前に祈りのうちに伏しておられるのを見なさい! このお方は神の御子であられながら、祈りによってご自分の信仰を強められ、天との交わりによって、ご自身に悪に抵抗するために、また人の必要に奉仕するために、力を集められます。わたしたち人類の長兄として、このお方は弱さに取り囲まれ、罪と誘惑の世界に生きていながら、なお神に仕えたいと願っている人々の必要をご存知です。このお方はご自分が送るのにふさわしいと思われた使命者が弱く、過ちのある人間であることをご存知です。しかし、自らをあますことなく、神の奉仕に捧げるすべての人に、このお方は神の助けを約束しておられます。このお方ご自身の模範は、真剣に辛抱強く信仰一全く神により頼み、このお方の働きに何も差し控えることなく献身するように導く信仰一 のうちに捧げる嘆願は、罪に対する戦いにおいて、人に聖霊の助けをもたらすことができるという保証です。」(福音宣伝者 511)

b. キリストの祈りの習慣は、どのようにしてわたしたちの模範となっていますか (マルコによる福音書 1:35; ルカによる福音書 6:12)。

「イエスご自身も、この世に住んでいたもうたときよく祈りたまりました。」(キリストへの道 127)

- a. イエスはどのようにご自分の弟子たちに祈り方を教えられましたか（ルカによる福音書 11:1-4）。

「イエスは、この世においてになったとき、弟子たちに祈る方法をお教えになり、毎日の必要を神に求め、どんな心配事もみな神に任せるようにお教えになりました。そして、彼らの祈りは必ず聞かれるという保証をお与えになりましたが、それはまた、わたしたちに対する保証です。…

かれは、弱きわたしたちの兄弟となり『すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われ』ました。しかし、罪なき方でありましたので、そのご性格が悪を退けたのでした。かれは罪の世にあつて、はげしい心の戦いと苦悩に耐えたまいました。かれの人間性は祈りを必要としました特権としました。イエスは、父なる神と交わりて慰めと喜びをお受けになりました。もし人類の救い主である神の子でさえ、祈りの必要をお感じになったのであるならば弱い罪深い人間には、どれほど熱心な、絶えざる祈りがなければならぬことでしょう。」（キリストへの道 127、128）

- b. 聖書は、キリストの献身をどのように述べており、またなぜそれがそれほど重要だったのでしょうか（イザヤ書 50:4; ヘブル人への手紙 2:10; 5:7-9）。

「人類がこのお方の上にあつたとき、このお方は御父からの力の必要を感じられました。このお方は祈りの場所を選んでこられました。山の離れた場所で御父と交わりを持つことを愛されました。このお方のきよい人の魂は、その日の義務と試練のために強められました。わたしたちの救い主は、わたしたちの必要と弱さをご自分のものとされました。その中でこのお方は嘆願するものとなられ、夜を徹して請願し、御父から新たな力の満ちしをお求めになりました。それによって活力を得て、活気づけられ、義務と試練に耐えることができたためでした。このお方は万事において、わたしたちの模範であられます。」（教会への証 2巻 201, 202）

「わたしは経験的な宗教が何であるかを知っている青年が 20 人のうち 1 人もいないことを見ました。彼らは自らに仕えながら、なお、キリストのしもべであると公言しています。しかし、彼らの上にある魔力が砕かれないうぎり、彼らはまもなく違反者の分が自分たちの者であることを自覚するようになるでしょう。自己否定と真理のための犠牲に関して、彼らはそれらを越えてよりたやすい道を見出してきました。神の許しの恵みとサタン誘惑に抵抗する強さを求めて涙と強い叫びをもって神に嘆願することに関しては、彼らはそれほど真剣に熱意を持つ必要はないと思いました。彼らはそれらなしでもやっていけます。栄光の王なるキリストは、しばしば一人で山や人気のないところへ行き、自分の魂の要求を御父へ注ぎ出されました。しかし、自分のうちに力を持っていない罪深い人間が、それほど祈らなくても生きていけると考えているのです。」（同上 1巻 504, 505）

- a. どのようにイエスは人の必要に対するご自分の御父の態度をわたしたちに明らかにしておられますか(マタイによる福音書 6:6; 7:7-11)。

「わたしたちの天の父は、あふれるばかり祝福をわたしたちに与えたいと待つておいでになります。限りなき愛の泉のほとりで思う存分飲むことは、わたしたちの特権です。それなのにわたしたちが少ししか祈らないのは、なんと不思議なことでありましょう。神は、その子らのどんな卑しい者であっても、心からの祈りにはいつでも耳を傾けようとしておいでになります。それにもかかわらず、わたしたちの方でわたしたちの要求をなかなか神に告げようとしないう有様です。」(キリストへの道 128)

「知恵にみちたもう神は、決して誤りたもうことなく、また、正しく歩む者に良きものを拒みたもうこともありません。ですから、たとえ祈りがすぐ答えられなくても、恐れず神に頼り『求めよ、そうすれば、与えられるであろう』(マタイ 7:7)という神のかたいみ約束に頼らなければなりません。」(同上 132)

- b. 何が、私たちの祈りの願いが主に聞き入れられることを妨げますか(詩篇 66:18; 箴言 28:13)。

「わたしたちは、心が神に引かれ、神のみわざ、あわれみ、祝福などを瞑想するでしょうが、これは、十分な意味での神との交わりではありません。神と交わるためには、わたしたちの実生活について何か神に話すことがなければなりません。」(同上 126)

「神は、限りなき愛をもって人類をみ心にかけ、いつでもわたしたちが求めたり思ったりする以上に与えようとしておいでになるのに、誘惑にさらされているあわれな力なき人間が格別祈ることに努めず、信仰うすき様をみて天使たちはいったいどう思うことでしょうか。天使は神のみ前にひざまずき、神のみそばにはべることを好み、神と交わることをこの上ない喜びとしています。それなのに、神のほか与えることのできない助けを最も必要としている地上の子らが、聖霊の光も神の臨在も仰がず、満足して日を送っているように思われるのです。

悪魔は、祈りをおろそかにする者を暗黒に閉ざし、誘惑の言葉をささやいて罪へおびき入れます。それというのも、ただわたしたちが、神の定めたもうた祈りの特権を用いないからです。」(同上 128、129)

「もし、心に不義のあることを知り、罪と知りながらそれに執着しているならば、主は、わたしたちの祈りに耳を傾けたまいません。けれども、心の砕けた悔い改めた者の祈りは、必ず聞かれるのです。心におぼえのある悪をすべて正したときに、神はわたしたちの祈りを聞いてくださると信じることができます。わたしたち自身のどんな行為も、神の恵みを受けるにはなんの価値もありません。わたしたちを救うのはイエスの功績であって、わたしたちをきよめるのもイエスの血です。しかし受け入れられるには、わたしたちもしなければならぬことがあります。」(同上 130、131)

- a. 弱く効果のない祈りとは対照的に、勝利する祈りの重要な要素は何でしょうか（ヘブル人への手紙 11:6; マルコによる福音書 11:24）。

「わたしたちが祈ったときに求めた通りのものが与えられなかったとしても、主はわたしたちの祈りを聞き、これに答えたもうことを信じなければなりません。わたしたちはまちがいが多く、先を見ることができませんので自分の祝福にもならないことを願うことがよくあります。けれども天の父は、愛のうちにその祈りに答え、わたしたちのため最もよいものをお与えになります。それは、もしわたしたちが天よりの光に目が開かれ、すべてのもののありのままの姿をながめることができたならば、わたしたち自身も必ず求めるものです。わたしたちの祈りが聞かれないように見えるときも、み約束にかたく頼らねばなりません。なぜならば、祈りが答えられるときが必ずきて、わたしたちが最も必要とする祝福を受けることができるからです。」（キリストへの道 131、132）

- b. 祈りが主に聞かれるためには、わたしたちはどのような精神を持たなければならないでしょうか（マタイによる福音書 6:12; マルコによる福音書 11:25, 26）。

「神のあわれみと祝福を求めるときは、わたしたちの心のうちに愛とゆるしの精神をもっていなければなりません。『わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください』（マタイ 6:12）と祈りながら、他人をゆるさない気持ちをもっていられるでしょうか。もし、自分の祈りが聞かれるように期待するならば、自分がゆるされたいと望むような態度と程度で、同じように人をゆるさなければなりません。」（同上 133〔筆者強調〕）

- c. エリヤの雨を求める祈りからわたしたちは何を学ぶことができますか（列王記上 18:41-45）。

「エリヤが祈っている間、しもべは注意して見守っていた。彼は六回戻ってきて『雲も雨のしるしもありません』』と言った。しかし預言者は落胆してあきらめなかった。彼は神に栄を帰すことに失敗した点を調べるために自分の人生を反省し続け、自分の罪を告白した。こうして彼は祈りが答えられたしるしを待つ間、神の御前に自分の魂を悩ませ続けた。彼が自分の心を探った時、自分自身の評価と神の御前の両方においてますます自分が小さく思えた。そして彼が自己放棄の点に達し、また自分の唯一の力と義として救い主にすがりついた時に、返答が来た。（SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 2 巻 1035）

- a. 祈りに関して、使徒たちはどのような重要な勧告を与えていますか（ペテロの第一の手紙 4:7; ビリピ人への手紙 4:6）。

「祈りは努めてしなければなりません。何物にもじゃまされてはなりません。イエスとあなたの魂との交わりをつねに保つことができるよう全力を尽さねばなりません。そして祈りがささげられるところへは、努めて機会あるごとに行かねばなりません。神とほんとうに交わりたいと求める人は、祈禱会に出席し、自分の義務を忠実に尽し、できるかぎりの利益を得ようと思って熱心です。彼らは、天からの光を受けるところへはできるだけ機会をつくっていきます。」（キリストへの道 134、135）

- b. どの親でもそうであるように、主はご自分の子らに何をすることを望んでおられますか（ルカによる福音書 11:10, 13; ヨハネによる福音書 14:13, 14）。

『わたしの名によって』祈りなさいと、キリストは弟子たちに言われた。キリストに従う者たちは、キリストのみ名によって神の前に立つのである。彼らのために払われた犠牲の価値によって、彼らは神の御目に価値があるのである。キリストの着せられた義によって、彼らはとうとい者とみなされる。神は神をおそれる者たちを、キリストのためにおゆるしになる。神は彼らのうちに罪人のけがれをごらんにならない。神は彼らのうちに、彼らが信じている神のみ子のみかたちをみとめられるのである。」（各時代の希望下巻 149）

「神に祈りをささげるのに、不適當な時とか場所とかはありません。熱心な祈りの精神をもって心を天に向けるのに妨げとなるものはなにもありません。雑踏した路上でも、商取引の最中でも、ちょうどネヘミヤがアルタシャスタ王の前で自分の願いを告げたときのように、神に願いをささげて導きを請うことができます。祈禱の密室はどこにでもあります。」（キリストへの道 136）

個人的な復習問題

金曜日 9月11日

1. すべての信者には、絶えず祈り続けることについて、どのような模範が与えられていますか。
2. どの預言が毎朝の祈りの重要性を示していますか。
3. 聞き入れられる祈りのための必要条件とは何ですか。
4. 答えを待っている間、なぜ祈り続けるべきなのでしょう。
5. イエスの御名によって祈るとはどういう意味かを述べなさい。

疑いをどうするか

暗唱聖句：「ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」（ヤコブ 1:6）

推奨文献：キリストへの道 145-158（疑いをいかにすべきか）

「神は、わたしたちに、信仰の基礎をおくに足る証拠を十分与えたもうた上でなければ、信ずるようには求めたまいません。」（キリストへの道 145）

1. 疑いとは何か

日曜日 9月13日

- a. 信仰と疑いの間でぐらつくよう誘惑される時、わたしたちは何を覚えているべきでしょうか（ヤコブの手紙 1:5-7）。

「〔救い主の〕約束は、快く主に全く従う者にだけ与えられる。神は、どの人の意志をも強制なされない。であるから、高ぶって教えを受けない者や、自分かつてなことをしようとしている者を導くことはできない。二心の人、自分自身の意志のまま行動しようとする人は、神のみこころを行うと口では言っているが、『そういう人は、主から何かをいただけるもののように思うべきではない』と書かれているのである（ヤコブ 1:7）。」（人類のあけぼの上巻 460）

- b. 主は疑いを克服するために何を与えて下さっていますか（詩篇 119:105; ヘブル人への手紙 11:1, 3, 6）。

「わたしたちの信仰は、外見的なものの上に築くのではなく、証拠の上に築くのでなければなりません。疑おうと思う者には疑うことができますがほんとうに真理を知りたいと求めている人は、信仰の基礎となる十分の証拠を発見することができます。」（キリストへの道 146）

「神は、み言葉の中に、み言葉が神からのものであるという証拠を十分にお与えになった。われわれの贖いに関する大真理は、はっきりと示されている。心から求めるすべての者に約束されている聖霊の助けによって、だれでも自分で理解することができるのである。神は、人が信仰をおくことのできる固い基礎をお与えになっている。」（各時代の争闘下巻 271、272）

- a. 神が説明しておられない神秘に対してわたしたちはどのように理解すべきでしょうか (申命記 29:29; ヨブ記 38:4-11)。

「神のみ言葉には、その著者である神のご性質と同じく、限りある人間には十分に理解できない神秘があります。罪がこの世に入ったこと、キリストの受肉、新生、復活、その他、聖書にしるされている多くの問題は、きわめて深い神秘ですから、とうてい人間の頭脳では説明することも、十分に理解することもできないのです。けれども神の摂理の奥義を了解できないからといって、神のみ言葉を疑うなんの理由もありません。」(キリストへの道 147)

「神は人々が不信を捨てるように強制されない。彼らの前には光と闇、真理と誤謬がある。どちらを受け入れるかを決定するのは彼ら自身である。人間の心には善と悪とを区別する能力がさずけられている。神は、人々が衝動的に決定しないで、聖句と聖句をくらべ、重要な証拠によって決定するように計画しておられる。もしユダヤ人が偏見を捨てて、書かれている預言をイエスの生活に目立っている事実とくらべてみたら、彼らは預言とこのいやしいガリラヤ人の生活と奉仕における預言の成就との間に美しい調和をみとめたのである。

今日も多くの者が、昔のユダヤ人と同じようにだまされている。宗教教師たちは、彼ら自身の理解と言い伝えの光に照して聖書を読み、人々は、自分で聖書をさぐって真理が何であるかを自分で判断しようとしな。彼らは、自分の判断を放棄して、自分の魂を指導者たちにまかせる。神のみことばを説き、これを教えることは光をゆきわたらせるために神がお定めになった方法の一つである。しかしわれわれは、どんな人の教えも聖書に照して調べてみなければならない。」(各時代の希望中巻 243)

- b. 聖書の中で理解しにくい事柄があるということをどのように認めていますか (ペテロの第二の手紙 3:16)。

「聖書の難解なことが懐疑論者の聖書の攻撃の論題となっていますが、このことがかえって聖書が神の靈感によるものであるという強い証拠です。もし聖書の神についての記録がわかりやすいことばかりで、神の偉大さと崇高さが限りある心で了解できるとするならば、聖書はまちがいに神よりのものであるという証拠はなくなるのです。聖書に示されている主題が大きく神秘的であるということが、神のみ言葉であるとの信仰を起すべきです。」(キリストへの道 148)

- a. この終わりの時代に、信者たちにとって特有の危険は何ですか（ヘブル人への手紙 3:12; テモテへの第二の手紙 4:3, 4）。

「非常に重大であるために、中空を飛ぶ聖天使たちによって宣べ伝えられたと表現されているほど重要な警告を、神が人々にお送りになる時、神は理性を持つ者がすべてこのメッセージに耳を傾けるように求めておられる。獣とその像を拝むことに対して宣告されている恐るべきさばき（黙示録 14:9 – 11 参照）について知るとき、だれでもみな、獣の印とは何か、それを受けないようにするにはどうすればよいかということを学ぶために、熱心に預言を研究するようになるはずである。しかし大部分の人々は、真理を聞くことから耳をそらし、作り話へと向かってしまう。使徒パウロは終末の時代を予見して、『人々が健全な教に耐えられなくな』ると言明した（テモテ第二・4:3）。その時がちょうど到来している。多くの人々は聖書の真理を好まない。なぜなら真理は、罪深い、世を愛する心の欲望を、妨げるからである。そしてサタンは、彼らの好む偽りを提供するのである。」（各時代の争闘下巻 360）

- b. 終わりの時代における二種類の人々の態度はどのように預言されていますか（ダニエル書 12:10; ヨハネの黙示録 22:11）。

「神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する一つの民を、お持ちになるであろう。学識者の意見、科学の推論、教会会議の定めた信条や決議（これらは、教会の数が多くてその主張も違うように、おびたしい数にのぼって内容も千差万別である）、大衆の声、— これらのうちの一つであれ全部であれ、それをもって信仰上の事柄に関する賛否の根拠と見なしてはならない。どんな教理や戒めでも、それを受け入れる前に、『主はこう言われる』という明日な事実をその裏づけとして要求すべきである。」（同上 360、361）

「義の太陽と生きた関係を保つ者には神のみ言葉についてたえず新しい光が与えられる。誰一人として、これ以上現わされる真理はないと決めてはならない。忠実に祈りつつ真理を求め人は、神のみ言葉から尊い光が輝き出するのに気が付く。まだまだ多くの宝石が散らされている。それを集め、神の残りの民の財産としなければならない。光は教会の力となるためだけに与えられるのではなく、暗黒の中にいる人々を照らすために与えられるのである。神の民は暗黒の中からそのたえなる光に導いてくださった神の栄を示さなければならない。」（安息日学校への勧告 33）

- a. わたしたちはどのようにして重要なものと重要ではないものとの間を区別することができますか(コリント人への第二の手紙 13:5; テトスへの手紙 3:9-11)。

「神は、われわれが信ずるに足る十分な証拠をお与えになっているが、一方また不信に対する口実を全部取り除かれるわけではない。疑おうと思うなら、その余地はいくらでもある。そして、すべての反論が―掃かれて疑う余地がなくなるまで神の言葉を受け入れず従わないというなら、決して光にくることはできないのである。」(各時代の大争闘下巻 272)

- b. どのような祝福が謙遜な者に与えられますか(ヤコブの手紙 4:6, 10; ペテロの第一の手紙 5:6, 7)。

「『私には助けが必要でしたが、その助けは、イエスから与えられました。すべての欠乏は補われ、魂の飢えはみたされました。今では、聖書は私にとってイエス・キリストの啓示となりました。私がどうしてイエスを信ずるかとお尋ねになりますか。それは、イエスは私にとっては天よりの救い主であるからです。どうして私が聖書を信ずるかといえば、それは、聖書が私の魂にとって神のみ声であることがわかったからです』と。わたしたちは体験によって聖書は真実であり、キリストは神の子であるということをおかしすることができます。そして、巧みな作り話を信じているのではないということを知ることができるのです。」(キリストへの道 156)

- c. 現在と将来における信者の経験を使徒パウロはどのように述べていますか(コリント人への第一の手紙 13:12)。

「この世においては、われわれは、贖いという驚嘆すべきテーマについてほんの初歩のことしか理解できない。辱しめと栄光、いのちと死、公平とあわれみとが、十字架において出会ったことを、われわれの有限な理解力でどんなに熱心に探り調べてみても、そしてわれわれの知力のかぎりも尽くしてみても、われわれはその意味を十分につかむことはできない。贖いの愛の長さ、広さ、深さ、高さは、かすかにしか理解されない。贖いの計画は、贖われた者たちが、見られているように見、知られているように知る時においてさえ、十分には理解されない。そして、永遠にわたって、新しい真理がたえず示されて、心は驚きと喜びに満たされるのである。」(各時代の争闘下巻 433)

「わたしたちは、信仰によって将来をながめます。そして、人間の機能が神と結合し、魂のあらゆる能力が光の源と直接に触れ合うとき、神の約束したもうたように知能がのびることを信じます。そのとき、神のみ摂理のうちにわたしたちが悩んだことはみな明らかにされ、わからなかったことも説明ができるようになります。そして、わたしたちの限りある心では、ただ混乱と矛盾ばかりであったところに、最も完全な美と調和を見ることでありましょう。『わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔を合わせて、見るであろう……しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう』(コリント第一 13:12)。」(キリストへの道 157、158)

- a. 終わりの時が近づいているこの時代に、主はどのような驚くべき方法でご自分のみ言葉を明らかにしてこられたでしょうか（ヨハネの黙示録 10:2, 6, 7）。

「封じられていた書は黙示録ではなく、終わりの時に関するダニエルの預言の部分であった。…（ダニエル 12:4）その書が開かれた時、『もう時がない』という宣言がなされた（黙示録 10:6 参照）。ダニエル書は今や封印が解かれており、キリストがヨハネに与えられた啓示は地上のすべての住民のもとに来ることになっている。知識が増し加わることによって一つの民が終わりの時に立つために備えられるのである。」（セクレット・メッセージ 2 巻 105）

「多くの者は黙示録は封じられている書であるという見解を抱いて、その奥義を学ぶために時間を割こうとしない。彼らは救いの栄光に目を留めるべきであって、これに比べれば、パトモス島でヨハネに啓示された奥義はそれほど考慮に値しないと。しかし神はこの書をそのようにはご覧になってはおられない。…

黙示録は、過去、現在、未来の出来事を世界に開示している。それは世の終わりに臨んでいるわたしたちに対する教えのためである。それは深い畏敬の念をもって学ばなければならない。…

主ご自身がご自分の僕ヨハネに黙示録の奥義を啓示された。そしてこのお方はすべての人々が黙示録を自由に学べるように計画しておられる。この書には今や過去となった光景や、現在わたしたちの周りで起こっているいくつかの永遠の利害にかかわることが描かれている。その中にあるいくつかの預言は終わりの時、暗黒の力と天の君との最後の大争闘が起きる時まで、完全には成就しないであろう。」（SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 954）

- b. 信者は聖書を学ぶにあたって何をすべきでしょうか（テモテへの第二の手紙 2:15; ヨハネによる福音書 7:17）。

個人的な復習問題

1. 何が真理であるかを理解するためにわたしたちはどのような態度をとるべきでしょうか。
2. なぜ聖書のすべての部分を完全には理解することができないのか説明しなさい。
3. なぜ多くの者は聖書の真理を受け入れようとしないのですか。
4. 本当に疑いたいと思っている者たちは、いつも何を見いだしますか。
5. なぜ従おうとする意志は真理を理解するために必要なのですか。

主にあつて喜ぶ

暗唱聖句：「むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。」（ペテロ第一の手紙 4：13）

推奨文献： キリストへの道 159 - 178（主にある喜び）

「主は、神の子らがみな幸福、平和、従順であるように望んでおいでになります。」（キリストへの道 174）

1. 光を担う者

日曜日 9月20日

- a. イエスはご自分の弟子たちにこの世でどのような責任があると仰せになりましたか（マタイによる福音書 5:13-16）。

「クリスチャンは、天国への道を照す燈火として置かれているのですから、キリストから輝き出た光を世の人々に反映しなければなりません。クリスチャンの生活、また、性格は人々が見て、キリストを正しく知り、キリストに仕えることはどんなことであるかを正しく知ることができるに足るものでなければなりません。」（キリストへの道 160）

- b. 信者たちはすべての者に対してどのような者であるべきでしょうか（ヨハネによる福音書 17:18, 23; コリント人への第二の手紙 5:20）。

「イエスは、神の子らのひとりびとりに手紙としてこの世に送りたまいました。もしキリストに従う者であれば、キリストはその人を手紙として、その住んでいる家族へ、村へ、町へお送りになるのです。イエスは人の心に内住して、まだイエスを知らない人の心に話しかけたいと望んでおいでになります。おそらくその人々は、聖書を読まず聖書に書かれたことに耳を傾けたりしないでしょう。また、神のみわざを見ても、神の愛を悟らないかも知れません。けれども、もしイエスの真の代表者がいるならば、世の人々はその人を見て神の恵みを悟ることができ、イエスを愛し、仕えるように導かれるのです。」（同上 159、160）

- c. この使命を果たすことはどのようにしてのみ可能でしょうか（コリント人への第二の手紙 3:2-5）。

- a. 神がご自分の子らに対して示された愛の最大の現れは何ですか（ヨハネによる福音書 3:16; ローマ人への手紙 5:6-10）。

「神の愛を疑い、神の約束に信頼しないならば、神をはずかしめ、聖霊を悲しませるのです。たとえば、母親が子供の幸福と慰めのためあらゆる努力を尽してきたにもかかわらず、子供らは、いっこうにそのようなことには気もとめず、不平ばかり言うならば母親はどう感じることでありましょう。もし子供たちが母の愛を疑ったとしたならば、母親はどれほど悲しむことでありましょう。どんな親でも、子供からそのように扱われるならば、どういう気持がするでしょう。それと同様に、天の父もわたしたちにいのちを与えるためにひとり子を賜うたその愛をわたしたちが信じなかったならば、わたしたちを顧みたもうことができるでしょうか。使徒は『ご自身のみ子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、み子のみならず万物をも賜わらないことがあるか』（ローマ 8:32）と言っています。けれども、口で言わなくても、その行いで、『神は私にこう言っておられるのではない。多分、神はほかの人々を愛したもうかもしれないが、私を愛したもうているのではない』と言っている人がたくさんあります。」（キリストへの道 164、165）

- b. 神がご自分の子らにすべての物を与えたいと願っておられることは何によって証明されていますか（ローマ人への手紙 8:32）。

「自分にはなんの価値もないと感じる人も、神に自分の願いをゆだねるのをためらってはいけません。世の罪のために、キリストを与えることによって、ご自分をお与えになった神は、すべての魂の責任をご自分で負われたのである。『ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあるか』（ローマ 8:32）。わたしたちを励まし力づけるために与えられたこうした恵み深いみことばを、神が成しとげてくださらないことがあるか。

キリストは、ご自分の嗣業である神の選民をサタンの手の中からあがない出すことを、何よりも望んでおられる。」（キリストの実物教訓 155）

- c. この愛はどのようにしてわたしたちの内に反映されますか（ヨハネの第一の手紙 4:9-12）。

「クリスチャンの働き人が仕事の成果をあげるには、キリストを知らなければならぬ。そして、キリストを知るには、キリストの愛を知らなければならぬ。天では、働き人としてふさわしいかどうかは、キリストが愛されたように愛し、キリストが働かれたように働く彼らの能力によって量られる。

『わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか』と使徒ヨハネは書いている。人を助け、人を恵みたいという衝動が絶えず心からわき出るときに、クリスチャン品性は完成する。信者の魂をとりまくこの愛の雰囲気、彼をいのちからいのちに至らせるかおりとし、その働きを神に祝福されるものとするのである。」（患難から栄光へ下巻 254）

- a. 人類の救いのための働きにおいてキリストの生涯を特徴づけていたものは何でしたか（イザヤ書 53:10, 7）。

「[キリストの] 生涯は絶えざる自己犠牲の生涯であった。この世において、旅人としてのご自分に対して友人たちが親切に住まいを提供してくれる場合を除いてこのお方の家はなかった。このお方はわたしたちのために最も貧しい生活を生きられ、また貧しい人々や苦しむ人々の間を歩まれ、その中でお働きになるために来られたのである。認められることもなく、尊ばれることもなく、このお方はご自身がこれほど多くの事をなされた人々の間を歩まれた。」（福音宣伝者 42, 43）

「[神の御子は]、ご自分がどこに向かって歩まれつつあるのかをよく知っておられたが、しかしこの涙は、ご自分のためではなかった。彼の前には、近づきつつある苦悩の場、ゲッセマネが横たわっていた。幾世紀もの間、犠牲としてさざげられる動物が通った羊の門も見えていた。そしてこれは、彼が『ほふり場にひかれて行く小羊のように』ひかれて行くときに、彼のために開かれるのであった（イザヤ書 53:7）。彼が十字架につけられる場所であるカルバリーも、あまり遠くはなかった。まもなくキリストが、ご自分をとがの供え物として歩まれる道は、大きな暗黒の恐怖におおわれなければならなかった。しかしこの喜ばしい時に彼の心を暗くしたのは、こうした光景を思われたためではなかった。彼の無我の心は、ご自分の超人的苦悩を予測して曇ることはなかった。彼が泣かれたのは、滅亡の運命にあるエルサレムの多くの人々のためであった。彼が祝し救うために来られた人々の盲目と強情のためであった。」（各時代の争闘上巻 2、3）

- b. 苦しみと試練の中で、イエスがご自分の働きを成し遂げる勇気を与えたものは何でしたか（イザヤ書 53:11; ヘブル人への手紙 12:2）。

「救い主が悪の権力と戦われた結果は、贖われた者たちに与えられる喜びであり、永遠にわたって神にみ栄えを帰することである。魂にはこのように大きな価値があるので、天父は、払われた価に満足される。そして、キリストご自身も、その大きな犠牲の実をごらんになって満足されるのである。」（各時代の争闘下巻 434）

「イエスは泣きたもうたが、ほほえみたもうたことは一度もないということは、よく言われることです。誠に、わたしたちの救い主は、人類のあらゆる悲しみを心を開いて受けたもうたのですから、悲しみの人であって、悩みを知りたもうていたに違いありません。イエスの生涯は、自己否定の生涯であって、悲痛の陰におおわれてはいましたが、イエスの意気はくじけていたわけではありませんでした。み顔には、苦しみ不平の色はなく、いつも変らぬ平和な落ち着いた表情がただよっていました。また、イエスのみ心はいのちの泉であって、かれの行きたもうところいづこにも、休息と平和、楽しみ、また、喜びをもたらしたもうたのです。」（キリストへの道 167, 168）

- a. 信者が誘惑に直面した時に、この霊的な戦いに勝利するために何が備えられていますか (エペソ人への手紙 6:11-18)。

「だれでも、試練、耐えがたい悲しみ、抵抗しがたい誘惑をもっていないものはありません。自分の悩みを友に語るのではなく、何事も祈りによって神に訴えなければなりません。疑いや失望の言葉はひと言も言わないということにいたしましょう。希望ときよい喜びにみちた言葉を語ることによって、ほかの人を更に明るく強く生きるように導くことができます。」(キリストへの道 166、167)

- b. 誘惑され試練に遭う時、多くの人はずなぜ信仰と疑いの間でためらうのでしょうか、また彼らは何をすべきですか (マタイによる福音書 14:28-31; ヤコブの手紙 1:2)。

「世の中には、勇敢な人々でもひどく試みにうちひしがれ、自我や悪の権力との戦いに気を失うばかりになっている人が多いのです。戦いはいかにはげしくとも、失望させず、勇気と希望にみちた言葉で励まし、前進させなければなりません。こうしてキリストの光があなたから輝き出るのは、『わたしたちのうち、だれひとり自分のために生きる者』(ローマ 14:7) なしです。わたしたちが気がつかないで及ぼす感化が人々を励まし強めることも、また失望させキリストと真理から退けることもできるのです。

また、世には、キリストの生涯と品性を誤解している人が多く、キリストは、あたたかさも明るさももっておいでにならず、厳格、苛酷で、なんの喜びも味わいたまわなかったと思っています。そして、すべての宗教経験がこのような陰鬱な見解にいろどられていることが多いのです。」(同上 167)

- c. 義人の道は試練のただ中であってもどのように輝いているでしょうか (箴言 4:18; ピリピン人への手紙 4:4)。

「道は悪く、坂は急であるかも知れない。右や左におとし穴があるかも知れない。また、わたしたちは旅の労苦を耐えなければならないかも知れない。疲れた時も、休息を切望する時も、労苦を続けなければならないかも知れない。弱っている時にも戦わなければならないこともある。失望に陥ってもなお、希望を持たなければならない。しかし、キリストに導かれて、わたしたちは必ず最後には、望む港に達することができるのである。キリストご自身が、わたしたちの先に悪路を進み行かれ、わたしたちの足のために道をなめらかにされた。

永遠のいのちに導くこのけわしい道のほとりには、いたる所に、疲れた者を力づける喜びの泉がわき出ている。」(祝福の山 174、175)

- a. イエスのどの約束がわたしたちに喜びの理由と天父への讃美の理由を与えますか（イザヤ書 41:10; ルカによる福音書 12:32; ペテロ第一 4:13）。

「神の民が心配事をいだいて心重くしているのは神のみ心ではありません。主はわたしたちをあざむきたまいません。わたしたちに『なにも恐れることはない。前途にはなんの危険もない』と仰せにはなりません。試練や危険があることをよく知りたもうて、はっきりとそうに言ってくださいます。民を罪と悪の世から取り去ろうとはなさらず、まちがいのないのがれの場所を示していたもうのです。」（キリストへの道 171、172）

- b. イエスが与えて下さった平和と喜びに関する素晴らしい約束のいくつかを挙げなさい（ヨハネによる福音書 14:1-3, 27; 15:11; 16:20）。

「わたしたちは、きたるべき争闘においては新しい困難が起ることを避けることができませんが、将来を見るときに過去をもふり返って『主は今に至るまでわれわれを助けられた』『あなたの力はあなたの年と共に続くであろう』（申命記 33:25）とすることができます。神は、わたしたちの力に耐えられない試練に会わせたもうことはありません。どんなことが起っても、試練に相当する力が与えられることを信じて、与えられるままにわたしたちの仕事を始めましょう。

やがて、天の門が神の子らのために開かれ、栄光の王のみ口より『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい』（マタイ 25:34）…

こうした栄えある嗣業を思うとき、人は『どんな代価を払って、その命を買いもどす』（マタイ 16:26）…。罪よりあがなわれ、きよめられ、神へのご用にその尊い力のすべてをささげた魂はこの上もなく尊いものです。天ではただ一人の救われたもののためにも、神と、天使は大きな喜びを感じます。そして、その喜びは、きよい凱歌となって表現されるのです。」（キリストへの道 176 - 178）

個人的な復習問題

金曜日 9月25日

1. 聖書を知らない人も含めて、すべての人にどのようにして真理が届けられるのでしょうか。
2. 主は人々に対する限りない愛をどのように示しておられますか。
3. 苦しみと死に直面された時、イエスの確信の源は何でしたか。
4. わたしたちが試練に直面する時、どのような備えが与えられていることを覚えておくべきでしょうか。
5. 日々の生活において信者は常に何を心にとめているべきでしょうか。

第一安息日 献金



安息日 2026 年 7 月 4 日

インド チェンナイの教会増築のために
1200 万人の魂の都市にあるこの教会の完
成を支えるために周りから援護しましょう！
(4 ページ)



安息日 2026 年 8 月 1 日

世界総会教育支部

一にも二にも三にも、教育をするように
召されています。効果的にするためには
資金が必要です。(25 ページ)



安息日 2026 年 9 月 5 日

フィリピンにおける聖書伝道訓練 学校

この学校が、神の意図された通りの学校に
なれるように強化しましょう。(51 ページ)